

ANNUAL Report

年報 2017



愛媛大学総合情報メディアセンター
Center for Information Technology, Ehime university

CiTE

あいさつ



愛媛大学総合情報メディアセンター長

樋上 喜信

平成 30 年 4 月 1 日付で、総合情報メディアセンター（CITE: Center for Information Technology, Ehime University）のセンター長を拝命致しました樋上と申します。前任の高橋寛センター長から引き継ぎまして、今年も年報をお届け致します。本センターは、平成 15 年 4 月に発足致しまして、情報基盤の整備を図り、教育研究活動の支援及び情報技術に関する教育研究を行うとともに、学内外の情報化に寄与することを目的に、情報教育、学術研究支援、ネットワーク管理などの業務を幅広く行っております。平成 30 年 4 月からは、情報基盤・セキュリティ部門、ICT（Information and Communication Technology）利用教育・情報サービス推進部門を設置し、業務にあたっております。

計算機システムやキャンパス情報ネットワークは、学生、附属学校生徒及び教職員にとってなくてはならないものであり、それらの利便性を向上し、常時安定的に利用可能とすることは、本センターの最大の使命と思われまます。一方、情報セキュリティの問題に対して万全の対策を施し、インシデント発生時には迅速な対処が可能な体制の構築が求められております。また、eラーニング等による効果的な教育システムの構築やサービス提供、情報リテラシ教育への寄与なども本センターが果たすべき役割の 1 つと思われまます。

以上のように総合情報メディアセンターの役割は大変重要であり、その責務は年々増しております。皆様のお役に立てるよう、今後も様々な取り組みを行って参りますので、ご支援とご理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

センター長あいさつ

1. 部門概要・業績	1
(1) 部門教職員.....	1
(2) 部門概要.....	2
(3) 教員活動実績.....	10
2. 教育研究実績	16
(1) 研究活動.....	16
(2) 学会発表等.....	29
3. 教育活動及び教育支援	30
(1) 教育活動.....	30
(2) 教育支援.....	33
4. 研究活動	35
(1) 研究成果.....	35
5. 業務関連	40
(1) 沿革.....	40
(2) 情報基盤システム.....	41
(3) 事業実績.....	43
(4) 利用状況.....	43
(5) センターイベント.....	49
(6) 各種委員会	49
(7) センター規則.....	51

1. 部門概要・業績

(1) 部門教職員(2018年3月現在)

【センター長(兼)】

教授：高橋 寛

【情報基盤部門】

教授：川原 稔

准教授：阿萬 裕久

助教(兼)：佐々木 隆志

【情報メディア教育部門】

教授(兼)：田中 寿郎

講師：仲道 雅輝

【学術情報システム部門】

教授：中川 祐治

教授：野口 一人

【その他】

教育支援者：菊川 佳代

【総合情報メディアセンター事務課】

課長

菊川 昭治

総務チーム

事務補佐員：窪田 鮎子(育休)、事務補佐員：深井 彩加

電子情報チーム

技術専門職員：池住 元秀、技術員：渡部 周平、技術員：梅本 祥史

技術員：吉田 あきえ、技術補佐員：陣内 恭子

情報基盤チーム

技術専門職員：宮内 譲嗣、技術専門職員(重信)：中村 勝

技術専門職員(樽味)：増田 隆司、技術員：近藤 智幸

1. 部門概要・業績

(2) 部門概要

【情報基盤部門(Division of Network and Computing)】

愛媛大学における情報システム、情報ネットワーク、情報セキュリティの整備計画を統括し、研究・教育の高度化・多様化に対応した高度な情報通信技術及び情報セキュリティ技術の導入・運用管理・教育、情報セキュリティ体制の確立・運用管理等、高信頼・高機能の情報ネットワーク及び情報システムを構築することをその目標としている。

平成 29 年度の主な活動は以下のとおりである。

1) 愛媛大学情報基盤システムの運用管理

情報基盤システム（平成 26 年 9 月 1 日稼働）は、情報ネットワーク、情報システム、情報教育用 PC から構成されている。情報ネットワークに関しては、データセンターを核として愛媛大学の主要キャンパス（城北、重信、樽味、持田）を耐故障性が高められた 40Gbps 回線（10Gbps×4）で接続したコンピュータネットワーク（MAN）及び城北キャンパス―重信キャンパス間を冗長系 32Gbps ファイバーチャネルで接続したストレージエリアネットワーク（SAN）で構成しており、高信頼性・高機能性を実現したものである。

情報システムに関しては、通常業務が安定的に行える広域仮想化統合環境を構築して安定的な運用が行えるようになってきている。これには、学内向けの OS 及び Web のホスティングサービスを数百のレベルでサポートできる人的・機械的体制が含まれている。情報システムを全て仮想化統合環境下で運用できることにより、耐障害性の高度化、無停止運用、事業継続計画（BCP）が可能となっている。

情報教育用 PC に関しては、附属学校等を含む愛媛大学全体の情報教育を行えるように、高等学校以上を対象とした教育用 PC を 1,122 台、中学校・小学校・特別支援学校を対象とした初等教育用 PC を 112 台導入し、合計 1,234 台が全学の演習室等に設置されている。初等教育用 PC では、タッチパネルによる直観的な操作が行える点に、教育用 PC では、医療データ等の表示を正確に読み取れる表示再現能力に重点を置いて導入している。

この情報基盤システムは、総合情報メディアセンター事務課と共同して安定的な運用管理を行っている。情報基盤システムの保守作業を委託している業者とは情報基盤システム保守定例会「システム状況検討会」を開催し、情報ネットワーク及び情報システム（サーバ群、パソコン端末群）の障害対応や改善について指導的役割を果たした。教職員と業者との担当部分を明確にして、専門家がそれぞれの担当部分について運用管理・監視・障害対応が行える体制を構築して、安定した運用を行い続けている。運用管理の補助を行うために、総合情報メディアセンター事務課を中心に申請システムが開発され、セキュアゲートウェイ申請及びホスティングサービス申請向けのオンライン申請システムが運用されている。

2) 情報セキュリティ対策

最高情報セキュリティ責任者（CISO）のもとに愛媛大学コンピュータセキュリティインシデント対策チーム（CSIRT）を平成 28 年度に構築して体制整備を行い、愛媛大学の情報セキュリティに関する対策及び技術的支援を行っている。平成 29 年 11 月には、学外公開申請書が提出されている学内のサーバに対して情報セキュリティ対策脆弱性検査を実施し、脆弱性が発見されたサーバ管理者には検査結果を通知して、改善ある

1. 部門概要・業績

いは廃止等の対策勧告を行った。平成 29 年度中には、インシデント対応を 178 件行い、そのうち 42 件（端末 38 件、サーバ 4 件）が不正アクセス等のインシデントであった。

3) 学習管理システムの運用管理・構築

情報基盤システムとは独立に運用を行っている学習管理システム Moodle の高負荷な本運用を平成 26 年 4 月から開始している。高負荷授業中の常時監視及び適宜最適化を行うことで安定運用ができる体制を整えてきた。情報セキュリティ対策及びシステムメンテナンスも継続的に行っている。

4) ホスティングサービスの運用管理

情報基盤システムが更新されたことにより、学内への多くのホスティングサービスに対応できる環境が整備され正式運用を開始した。平成 30 年 3 月現在で、OS ホスティング 41 件、Web ホスティング 77 件がサービスされている。制度的にも整備を行い、研究活動や教育活動、更には、地域連携や社会連携にも活用できるプラットフォームとして利用が可能となっている。部局等へのメールサービスについても、ホスティングサービスの一形態として再定義し、運用体制を整備している。

5) クラウドメールの運用管理

平成 26 年 4 月よりマイクロソフト社 Office 365 を用いて、愛媛大学アカウントを認証基盤とした全学クラウドメールを学生・教職員全員を対象として運用を開始した。Office 365 に関しては、マイクロソフト社による仕様変更等によるトラブルに対しても、適宜対応を行い安定運用に努め続けている。

6) 遠隔拠点の整備

愛媛大学では、地域・社会連携等のため愛媛県内に多くの遠隔拠点を抱えている。遠隔拠点においては、主要キャンパスと変わらない情報ネットワーク環境を提供するため、総合情報メディアセンターでは VPN (Virtual Private Network) による遠隔拠点への情報ネットワークを構築して供給している。現在、遠隔拠点用情報ネットワークは 19 地点で、遠隔拠点は新情報基盤システムの一部として機能しており、情報基盤システムとしての安定した運用管理体制となっている。

7) 総合情報メディアセンター第 2 部会（情報資源・セキュリティ管理部会）

総合情報メディアセンター第 2 部会では、愛媛大学における情報ネットワークや情報システム等の情報資源及び情報セキュリティ関連事項について、整備、立案、予算確保、構築、運用管理等あらゆる審議を行っている。基本的に、部会において情報資源・セキュリティ関連事項について種々の検討を行い、決定事項について必要に応じて教員コア会議・センター会議への審議送り及び学長や役員会との調整作業を行っている。平成 29 年度の部会は、第 1 回：4 月 10 日、第 2 回：5 月 15 日、第 3 回：6 月 12 日、第 4 回：7 月 10 日、第 5 回：8 月 21 日、第 6 回：9 月 11 日、第 7 回：10 月 16 日、第 8 回：11 月 13 日、第 9 回：12 月 11 日、第 10 回：1 月 15 日、第 11 回：2 月 13 日、第 12 回：3 月 19 日に開催した。愛媛大学情報セキュリティ委員会に対する情報セキュリティ対応の役割も果たした。

1. 部門概要・業績

8) 愛媛大学情報セキュリティセミナーの開催

情報通信技術は導入しただけで終わりという訳ではなく、常に情報セキュリティに注意を払う必要があり、場合によっては、情報セキュリティの面から導入した情報システム等の更新を考える必要もあるため、平成 29 年 9 月 19 日(水)に教職員を対象にした「情報セキュリティセミナー」を開催した。国立情報学研究所教授 高倉弘喜氏から「これからのサイバーセキュリティ人材に求められる能力策」について、これからのセキュリティ対策の考え方と人材育成の動向について、具体的な事例を交えて話があった。

【情報メディア教育部門 (Division of Multimedia Education)】

情報メディア教育部門は、高度情報化技術を活用した情報リテラシー教育及び各種のマルチメディア教育のシステム開発を研究し、実践方法の検討を行うこと、さらに、愛媛大学の情報リテラシー教育を企画・立案するとともに実施方法の検討を行うことをその目標としている。

平成 29 年度の主な活動は以下のとおりである。

1) 教育デザイン室の運営

各学部・研究科等において、愛媛大学教育改革促進事業（愛大 GP 事業）で新設された種目 3（授業改善プロジェクト）等を活用し、共通教育科目及び各学部・研究科において、eラーニング教材など ICT を用いた授業方法を拡充した。

また、平成 30 年 4 月の総合情報メディアセンター組織改編に伴い、教育デザイン室を廃止し、新たに「ICT 利用教育推進室」を設置することとなった。教育デザイン室の業務内容を整理し、利用者の混乱を招かないための検討を進め、教育デザイン室から「ICT 利用教育推進室」へ継続する一部業務の精選及び検討を行い、平成 30 年 2 月 5 日の「ICT 利用教育推進室(仮)と教育デザイン室の業務引継に関する打合せ」によって、最終的な業務引継項目が決定した。平成 29 年度 3 月末に、教育デザイン室とメディアセンター事務課電子情報チームとの担当者間で、業務の引継作業を終わらせた。

2) eラーニングコンテンツの制作実績

平成 29 年度 28 コンテンツ（計 127 講）を作成した。具体的には、愛大 GP に関連するものを 2 コンテンツ（計 6 講）、各学部等 4 コンテンツ（計 5 講）、その他 22 コンテンツ（計 116 講）である。また PPT ブラッシュアップ支援業務も 1 件行った。

		科目	担当教員	完了
学内 GP	1	英語学習 【英語教育センター】	長崎 睦子	5 講/全 5 講
	2	日本語・英語共同学習コンテンツ（改訂） 【法文学部・附属高校】	秋山 英治	1 講/全 1 講
各学部等	3	日本語リテラシー入門 改訂 【共通教育】	秋山 英治	1 講/全 1 講
	4	法文学部特別講演会 DVD 制作 【法文学部】	小佐井 良太	2 講/全 2 講
	5	社会学入門 【法文学部】	小佐井 良太	1 講/全 1 講

1. 部門概要・業績

	6	地球物理学実験 【地球深部がけ付メカニクス研究センター】	土屋 旬	1 講/全 1 講	
その他	7	学術フォーラム	経営企画課	2 講/全 2 講	
	8	ELS	教育企画室	2 講/全 2 講	
	9	あいだい体操 DVD 一部改訂	医学部附属病院	1 講/全 1 講	
	10	留学生のための日本語リテラシー 【国際教育支援センター】	伊月 知子	開発中止	
	11	地球科学 【社会共創学部】	榊原 正幸	4 講/全 4 講	
	12	化学 【社会共創学部】	榊原 正幸	4 講/全 4 講	
	13	微分積分 【社会共創学部】	高橋 学	3 講/全 3 講	
	14	ミャンマー人学生向けの安全衛生教育	未定	開発中止	
	15	昆虫の世界 【知ブラ事業】	吉富 博之	7 講/全 8 講	
	16	インドネシアの文化と会話 【知ブラ事業】	島上 宗子	8 講/全 8 講	
	17	和算の世界 【知ブラ事業】	平田 浩一	6 講/全 8 講	
	18	身の回りの放射線 【知ブラ事業】	田中 寿郎	6 講/全 8 講	
	19	アカデミックプレゼンテーション (パワーポイント編) 【知ブラ事業】	仲道 雅輝	8 講/全 8 講	
	20	私たちの生活と材料 【知ブラ事業】	小林 千悟	8 講/全 8 講	
	21	塩業考古 (仮) 【知ブラ事業】	村上 恭通	開発中止	
	22	魚の養殖 (仮) 【知ブラ事業】	未定	開発中止	
	23	プレゼンテーションスキル 【高大接続】	光宗 宏司	1 講/全 1 講	
	24	情報 【高大接続】	光宗 宏司	1 講/全 1 講	
	25	愛媛新聞社提供講座 【COC+事業】	平尾 智隆	15 講/全 15 講	
	26	平成 28 年度経済同友会提供講座 【COC+事業】	平尾 智隆	10 講/全 10 講	
	27	愛媛学 【COC+事業】	庭崎 隆	3 講/全 3 講	
	28	職業選択準備講座 【COC+事業】	就職支援課	3 講/全 3 講	
	29	平成 29 年度経済同友会提供講座 【COC+事業】	平尾 智隆	8 講/全 8 講	
	30	社会連携職員養成研修 【COC+事業】	前田 眞	2 講/全 2 講	
	31	教員免許講習⑥ 【8 大学連携・KAGAC】	愛媛大学	7 講/全 7 講	
	32	教員免許講習⑦ 【8 大学連携・KAGAC】	愛媛大学	7 講/全 7 講	
	PPT ブラッシュアップ	33	「21 世紀型プログラミング授業モデル開発」と普及	附属高校	2p

1. 部門概要・業績

3) 修学支援システムとの連携

Moodle3.1 と修学支援システムとのコース履修者連携機能の運用が、平成 29 年 9 月 27 日より開始された。これによって、履修登録が行われた学生の Moodle3.1 コースへの自動登録が可能となった。

4) 「情報リテラシー入門」の TA・SA 個別研修

教育・学生支援機構 教育企画室主催の「平成 28 年度 愛媛大学 TA・SA 研修会」の分科会として以下のとおり実施した。

日時：平成 29 年 4 月 7 日(金) 11:20～12:30

場所：総合情報メディアセンター3 階 第 2・第 3 演習室

対象：共通教育科目「情報リテラシー入門 I」, 「情報リテラシー入門 II」を担当する大学院生と学部生。約 30 名。

内容：

- ・ TA/SA の業務確認並びにマネージメントについて
- ・ 連結講義における TA と SA の役割について
- ・ e ラーニングシステムの利用について
- ・ グループワーク
- ・ センター機器(連結講義システム)の操作

5) 「情報リテラシー入門」の教員・TA・SA 用コースの作成

e ラーニングシステム上に情報リテラシー入門担当教員・TA・SA 専用コースを作成した。講義手引き、講義用説明資料・ビデオなど、毎回の講義資料を共有するとともに、TA・SA が毎回の業務報告を提出し、情報交換を行う場を提供した。

6) 共通教育科目「情報リテラシー入門 I」, 「情報リテラシー入門 II」の実施

全学共通シラバスのもと、e ラーニングによる共通コンテンツを活用した授業「情報リテラシー入門 I」及び「情報リテラシー入門 II」の実施を支援した。

第 1 回授業ではオンラインによる習熟度別振り分け試験を実施し、その結果に基づいて学生を習熟度別にクラス振り分け、第 2 回以降の授業を行った。また、コース作成により、各授業の理解度を確認するオンライン確認テスト、期末試験の勉強のためのオンライン模擬テスト、成績評価のためのオンライン期末テストの実施を支援した。

平成 29 年 8 月 7 日(月)、台風接近のため、月曜の授業が休講になった。情報リテラシー入門 II では、1 限(主に理学部)、3 限(主に農学部)の Q2 期末試験を実施できなかった。予備日が設定されていないため、急遽、教員、学生、学部事務と連絡をとり、夏季休暇中の追試験の日程・教室を確保した。理学部は 8 月 10 日までに大部分の学生の追試を実施した。農学部は集合研修が予定されていたため、9 月 26 日の実施となった。9 月の試験実施にあたり、Windows のアップデート 8.1→10、Moodle のアップデート 2.3→3.1 があったため、Moodle 関連コースの移行、及び動作確認を行って試験に臨んだ。

1. 部門概要・業績

7) 教員説明会

平成 29 年度より大きな相違はないため、「平成 30 年度 情報リテラシー入門担当教員説明会」は行わず、資料を配布した。

対象：共通教育科目「情報リテラシー入門 I」, 「情報リテラシー入門 II」担当教員 20 名

配布資料：

- ・平成 30 年度からの教員のローテーションについて
- ・期末試験問題の確認と修正作業について
- ・Q2 の期末試験の監督補助について
- ・TA・SA の配置について

8) 総合情報メディアセンター第 3 部会「e ラーニング推進部会」に於いて e ラーニング推進について種々の検討を行った。開催日程及び審議・報告事項等は下表のとおりである。

回	日時	審議事項等
第 1 回	平成 29 年 4 月 27 日 (木)	平成 29 年度「e ラーニング推進部会」委員について 平成 29 年度「e ラーニング推進部会」開催日について 平成 29 年度課題スケジュール (案) について 平成 29 年度コンテンツ開発計画 (案) について 平成 29 年度前期 Moodle 利用申請数の速報について
第 2 回	平成 29 年 7 月 6 日 (木)	平成 29 年度コンテンツ開発計画の一部変更について 教育デザイン室アンケート結果について マイナーバージョンアップに伴う Moodle3 の停止について
第 3 回	平成 29 年 10 月 5 日 (木)	コンテンツ開発計画の一部変更について 平成 29 年度課題スケジュールの中間報告について 総合情報メディアセンターの在り方検討 WG 報告について 平成 29 年度後学期 Moodle コース利用申請状況について
第 4 回	平成 29 年 12 月 7 日 (木)	コンテンツ開発計画の一部変更について 教育デザイン室 Web サイトコンテンツの引き継ぎについて 教育デザイン室業務の引き継ぎ要望について
第 5 回	平成 30 年 2 月 22 日 (木)	課題スケジュール最終報告について ICT 利用教育推進室への業務引き継ぎについて 平成 30 年度 Moodle 3 利用申請数の最終報告について

9) 教育・学生支援機構主催の「FD スキルアップ講座」及び「テニユア・トラック研修」の講師として 7 講座合計 7 回を実施した。

- ・「学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計～課題分析図の活用～」(仲道雅輝, 平成 29 年 5 月 11 日)
- ・「統計ソフト (Access) 利用法」(都築和宏, 平成 29 年 8 月 1 日～9 月 30 日※e ラーニング)
- ・「アカデミックプレゼンテーション (PowerPoint 編)」(仲道雅輝, 平成 29 年 8 月 1 日～9 月 30 日
※e ラーニング)

1. 部門概要・業績

- ・「効果的なeラーニング活用法（超入門編）」（仲道雅輝，平成29年5月18日）
- ・「学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン（ID）入門～ARCS 動機付けモデルの活用」（仲道雅輝，平成29年9月12日）
- ・「eラーニング入門～Moodle を利用してきめ細やかな学習支援を実現しよう～」
（佐々木隆志，仲道雅輝，平成29年9月14日）
- ・「学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法」
（仲道雅輝，平成29年12月14日，平成29年12月15日—平成30年1月31日※eラーニング）

10) Moodle 利用数の推移（平成23年～平成29年度）

2016年度と比較し，2017年度はコース申請数1,531（300増：24.4%）申請教員数516名（35名増：7.28%）の増加となった。

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
コース数	349	410	569	981	1,004	1,231	1,531
申請教員数 （実数）	93名	123名	177名	269名	408名	481名	516名
登録学生数 （累計）	17,785名	21,279名	25,331名	60,399名	52,712名	80,980名	104,297名

※2017年度の最終集計結果は、2018年1月18日現在の数値である。

【学術情報システム部門（Division of Information System）】

学術情報システム部門は，学内ネットワークを含めた情報システムの安全かつ効率的な運用を行うための研究開発及び学内の先端的な研究センターへのデータベース構築，情報発信面での研究協力・支援を行う。

平成29年度の主な活動は以下のとおりである。

1) 国立大学法人愛媛大学，一般社団法人愛媛県法人会連合会，松山市とのデータ利活用に関する連携協力協定
平成30年3月26日（月），本学と松山市及び愛媛県法人会連合会が緊密に連携協力し，データの分析や研究を通してデータサイエンティストの人材育成，地域課題の解決及び地域経済の活性化に資することを目的に協定を締結した。ICT（情報通信技術）の進展により，ビッグデータやオープンデータの利活用が重要視される現代において，本協定は，データ利活用を中心テーマとして，三者それぞれの課題を共有し，データ・AI・IoTを駆使して，データが人を豊かにする社会の実現を目指す。

調印式では，まず，野志克仁松山市長から「データが人を豊かにするICTを活用した住みやすいまちづくりを目標に，データ利活用に関する基盤整備を行いたい。」と挨拶があった。大橋裕一学長は「松山市が公開する行政オープンデータや県内企業が保有するビッグデータを解析することでデータサイエンス教育を充実させ，地域で活躍できる人材を数多く輩出したい。」と述べ，森田浩治愛媛県法人会連合会会長からは「県内企業は労働力不足という課題にも直面しており，限られた人員でいかに労働生産性を向上させるかが課題。企業の成長戦略として新しいビジネスモデルの構築や産業の創出に繋がることを期待したい。」と挨拶があった。

今後は，三者の連携協力を円滑かつ効果的に推進するために，研究協議会の本部を理学部に設

1. 部門概要・業績

置して、産学官が一体となって、データの分析や研究を通して、人材育成、地域課題の解決、地域経済の活性化に取り組んでいく。(<https://www.ehime-u.ac.jp/post-74394/>)

2) 愛媛大学と松山大学との連携による Code for DOGO の活動

「オープンデータの利活用に関する Code for DOGO の活動とアプリ開発」と題して、本学の教員と学生及び松山大学の教員と学生によるチームを構成し、行政機関が保有するオープンデータを用いた活動の3年目を迎えた。活動としては、昨年同様月一回の定例会の開催と各種セミナーの開催、International Open Data Day への参加(3/3)、東京大学空間情報科学研究センター「次世代社会基盤情報寄付研究部門」及び一般社団法人「社会基盤情報流通推進協議会」が主催する『アーバンデータチャレンジ2017』(2/24)及び東京大学公共政策大学院が主宰する「チャレンジオープンガバナンス2017」へ参加した。

3) e-まつやま最先端情報技術研究会における研究及び人材育成

2008年に、愛媛大学・松山市・松山法人会及び松山商工会議所による合同研究会「e-まつやま最先端情報技術研究会」が発足し10年目を迎えた。本研究会は、先進的な情報通信技術全般について調査・研究等を行い、その有効性等を検証するとともに、地域の人材育成や地域産業の活性化を図ることを目的として設立されたが、昨年度はオープンデータの公開と利活用について重点的に進めることとなり、Code for DOGO と連携して取り組みを行った。

4) 愛媛県ネットワーク防犯連絡協議会での貢献

愛媛県警よりネットワーク上で犯罪の可能性を調査する「サイバーパトローラー」を引き続き学生に委嘱したいとの依頼を受けて、本学より6名の学生(学部生)を選抜し、7月12日に河原学園において委嘱式が執り行われた。サイバーパトローラーとして委嘱された学生は、県警のサイバー犯罪対策室と連携して調査及び情報収集に当たった。また、愛媛県ネットワーク防犯連絡協議会では引き続き顧問として、セミナーの講師招請などを行った。

5) 「キャンパス IT 授業 2017」の実施

9月27日(水)13:00から16:00に総合情報メディアセンターにおいて、附属高校の「グローバル・エデュケーション(伊豫学)」の授業として「キャンパス IT 授業 2017」を実施した。講義は「Processingをはじめよう」(担当:中川)、「インターネットの中身を覗いてみよう」(担当:野口)、「測ってツイート!センサーネットワークに挑戦」(担当:佐々木)の3つを並行してそれぞれ2回実施した。

(3) 教員活動実績



中川 祐治

NAKAGAWA Yuji

<職名>：教授

<生年月日>：1957年12月14日

<電話>：089-927-9569

<E-mail>：nakagawa.yuji.mk@ehime-u.ac.jp

<職歴>：

○(株)富士通研究所情報処理研究部門パターン研究部
研究員(1986年4月～1989年12月)

○鹿児島大学助教授(1990年1月～1990年3月)

○鹿児島大学情報処理センター主任/助教授(1990年
4月～1993年3月)

○国際基督教大学助教授(1993年4月～1995年3月)

○国際基督教大学準教授(1995年4～1996年6月)

○愛媛大学教授(1996年7月)

<学歴>：東京都立大学大学院理学研究科博士課程修
了

<学位>：1986年理学博士(東京都立大学)

<免許・資格>：

○(公)日本シェアリングネイチャー協会認定「ネイチ
ャーゲームリーダー」(1999年8月)

○NPO 法人自然体験活動推進協議会認定「自然体験活
動リーダー」(2003年4月)

<所属学会>：人工知能学会，情報処理学会，電子
情報通信学会，日本データベース学会，ACM，コンピ
ュータ利用教育学会，高エネルギー物理学研究者会議，
日本環境教育学会，日本環境教育フォーラム

<専門分野>：情報認識学，高エネルギー物理学，
環境教育

<研究課題>：画像認識・理解の研究，遠隔教育シ
ステムの研究，環境教育と情報認識学の融合

<部局内貢献>：

○総合情報メディアセンター会議委員(2011年4月
～)

○第1部会(システム最適化)部会長(2011年7月
～)

○業務継続計画策定ワーキンググループ(2011年11
月～)

○総合情報メディアセンター在り方検討ワーキング
グループ(2014年～)

<学外審議会・委員会活動>：

○愛媛県ネットワーク防犯連絡協議会顧問(2007年
12月～)

○松山市 松山市児童家庭相談システム構築事業業務
委託総合評価委員会委員(2017年7月～12月)

○四国中央市 新庁舎建設に伴う地域公共ネットワー
ク再構築事業に係る助言者(2017年9月～11月)

○松山市 松山市下水道地理情報システム再構築事業
業務委託総合評価委員(2018年1月～3月)

<調査・研究会等への貢献>：

○e-まつやま最先端情報技術研究会理事(2008年4月
～)

○愛媛県法人会連合会 結婚支援ビッグデータ活用研
究会委員(2017年8月～2018年3月)

○愛媛県法人会連合会 結婚支援ビッグデータ・オー
プンデータ活用研究会委員(2017年8月～2018年3
月)

<講演実績>：

○「Processingをはじめよう」，キャンパス IT 体験
会2017，愛媛県(2017年9月27日)

<地域啓発活動・教育機関支援活動>：

○Code for DOGO 代表(2015年3月～)

○愛媛県シェアリングネイチャー協会理事及び事務局
長(2005年4月～2017年4月)

○愛媛県シェアリングネイチャー協会副理事長(2017
年4月～)

<ボランティア活動>：

○愛媛県シェアリングネイチャー協会道後シェアリン
グネイチャーの会運営委員長(2007年1月～)

1. 部門概要・業績



野口 一人

NOGUCHI Kazuto

<職名> : 教授

<電話> : 089-927-8802

<FAX> : 089-927-8805

<E-mail> : noguchi.kazuto.mx@ehime-u.ac.jp

<職歴> :

○日本電信電話株式会社フォトニクス研究所・他勤務 (1986年4月～2011年6月)

○愛媛大学教授 (2011年7月)

<学歴> : 早稲田大学大学院理学研究科修士課程修了

<学位> : 2001年博士(工学)(早稲田大学)

<免許・資格> : 第一種衛生管理者, 有機溶剤作業主任者, 特定化学物質等作業主任者, レーザ機器取扱技術者(第1種), 特定高圧ガス取扱主任者

<所属学会> : 電子情報通信学会, 応用物理学会, IEEE, 遠隔医療学会

<専門分野> : 光デバイス, 光波長多重通信, 情報ネットワーク

<研究課題> : 光・情報ネットワークの高度化, 医療ICT

<部局内貢献> :

○総合情報メディアセンター会議委員(2011年7月～)

○情報資源・セキュリティ管理部会委員(2011年7月～)

○安全衛生委員・安全衛生管理委任者(2013年1月～)

○eラーニング推進部会委員(2016年4月～)

<調査・研究会等への貢献> :

○大学プログラミングオープンチャレンジ(EPOCH@まつやま)実行委員(2011年)

○第73回応用物理学会学術講演会 現地実行委員(2012年9月)

○電子情報通信学会 ネットワークシステム研究会・無線ネットワークシステム研究会 現地世話人(2012年12月)

○電子情報通信学会 光通信システム研究会 現地世話人(2013年1月)

○日本胎児心臓病学会 日本胎児遠隔医療研究会幹事(2013年2月～)

○えひめITフェア2013(2013年6月)

○電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ研究会 現地世話人(2013年12月)

○IEEE 四国支部 Vice Chair(2017年1月～)

○セキュリティシンポジウム道後ライブ配信(2018年3月)

<講演実績> :

○「インターネットの中身を覗いてみよう」, キャンパスIT体験会2017, 愛媛県(2017年9月27日)



川原 稔

KAWAHARA Minoru

<職名> : 教授

<電話> : 089-907-6700

<FAX> : 089-927-8805

<E-mail> : kawahara@ehime-u.ac.jp

<職歴> :

○京都大学助手(1990年4月～2004年2月)

○愛媛大学助教授(2004年3月～2007年3月)

○愛媛大学准教授(2007年4月～2013年1月)

○愛媛大学教授(2013年2月)

<学歴> : 京都大学大学院工学研究科応用システム科学専攻修士課程修了

<学位> : 2003年博士(情報学)(京都大学)

<所属学会> : 電子情報通信学会, 情報処理学会

<専門分野> : 情報通信システム, 知能情報学, 情報保障, 医療情報学, オペレーションズリサーチ

<研究課題> : ○オーバーレイネットワークを基盤とした自律協調分散システムに関する研究

○情報ネットワークを基盤としたロケーションウェアに関する研究

○視覚情報保障の情報通信技術応用に関する研究

○情報通信技術による視覚特性の計測に関する研究

○数理モデルを用いた地域連携・産学連携問題解決法に関する研究

<部局内貢献> :

1. 部門概要・業績

- 総合情報メディアセンター会議委員(2011年4月～)
- 第2部会(情報資源・セキュリティ管理部)部長(2011年7月～)
- システム状況検討会(情報基盤システム保守定例会)議長(2011年4月～)
- 愛媛大学最高情報セキュリティアドバイザー(2012年9月～)

- 情報セキュリティ専門委員会委員長(2012年9月～)
- 情報セキュリティ委員会委員(2012年9月～)
- CSIRT(情報セキュリティ対策チーム)(2016年度～)
- <学外審議会・委員会貢献>:
 - 電子情報通信学会コミュニケーションクオリティ研究専門委員会専門委員(2007年4月～)



阿萬裕久

AMAN Hirohisa

<生年月日>:

1973年8月8日

<職名>: 准教授

<電話>: 089-927-8981

<FAX>: 089-927-8805

<E-mail>: aman@ehime-u.ac.jp

<職歴>:

- 愛媛大学工学部助手(2001年4月～2005年3月)
- 愛媛大学工学部特任講師(2005年4月～2006年3月)
- 愛媛大学大学院理工学研究科特任講師(2006年4月～2007年3月)
- 愛媛大学大学院理工学研究科講師(2007年4月～2013年9月)
- 愛媛大学総合情報メディアセンター准教授(2013年10月～)

<学歴>: 九州工業大学大学院理工学研究科博士後期課程修了

<学位>: 2001年 博士(工学)(九州工業大学)

<免許・資格>: 第一種衛生管理者

<所属学会>: 情報処理学会, 電子情報通信学会, 日本ソフトウェア科学会, 日本知能情報ファジィ学会, 米国電気電子学会(IEEE)

<専門分野>: ソフトウェア工学

<研究課題>:

- ソフトウェア品質に関する定量的尺度の研究
- ソフトウェアの効率的な品質向上に向けた数理モデルの活用に関する研究
- ソフトウェア開発活動に対する品質マネジメントの

実践に関する研究

<部局内貢献>:

- 総合情報メディアセンター会議委員(2013年10月～)
- 第2部会(情報資源・セキュリティ管理部)委員(2011年7月～)
- 第3部会(eラーニング推進部会)委員(2015年4月～)
- 情報セキュリティ専門委員会委員(2014年4月～)
- 修学支援システム検討専門委員(2015年9月～2016年2月)

○CSIRT(情報セキュリティ対策チーム)(2016年度～)

<学外審議会・委員会貢献>:

- 日本ソフトウェア科学会学会誌編集委員(2013年4月～)
- 電子情報通信学会知能ソフトウェア工学研究会 専門委員(2003年5月～)
- 情報処理学会ソフトウェア工学研究会 運営委員(2006年5月～2017年3月)
- 情報処理学会論文誌ソフトウェア工学特集号編集委員(2015年2月～)
- 日本ソフトウェア科学会 ソフトウェア工学の基礎ワークショップ FOSE 2016 プログラム共同委員長
- 松山市農地台帳システム再構築事業業務委託総合評価委員(2015年4月～2015年7月)
- The 3rd International Conference on Big Data, Cloud Computing, and Data Science (BCD2018) プログラム委員
- The 13th Workshop on Testing: Academia-Industry Collaboration, Practice and Research Techniques (TAIC PART 2018) プログラム委員

1. 部門概要・業績

○独立行政法人大学入試センター教科科目第一委員会委員（情報関係基礎問題作成部会）（2014年4月～2016年3月）

○四国医療技術専門学校 非常勤講師(2006年10月～)

<講演実績>:

○招待講演「ソフトウェアメトリクスについて知っておきたいこと」(ソフトウェアテストシンポジウム

<地域啓発活動・教育機関支援活動>:

○国立情報学研究所 トップエスイー 講師(2008年4月～2016年3月)

2014 in 四国, 2014年11月14日)

○招待講演「メトリクス研究の一展開：人に依存するファクタの影響について」(ソフトウェア信頼性研究会第11回ワークショップ, 2015年11月14日)



仲道 雅輝

NAKAMICHI Masaki

<生年月日>:

1971年5月8日

<職名>: 講師

<電話>: 089-927-8800

<FAX>: 089-927-8805

<E-mail>: nakamichi.masaki.me@ehime-u.ac.jp

<職歴>:

○学校法人日本福祉大学 事務職員

(1995年4月～2011年9月)

○愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 助教(2011年10月)

○愛媛大学 総合情報メディアセンター 兼 教育・学生支援機構教育企画室 助教 (2012年7月)

○愛媛大学 総合情報メディアセンター教育デザイン室長 兼 教育・学生支援機構教育企画室 助教(2013年4月)

○同所属のまま 講師 (2013年12月～2018年3月)

<学歴>:

日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科卒業(1995年3月)

熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻博士前期課程修了(2009年3月)

熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻博士後期課程修了(2018年3月)

<学位>:

1995年 学士(社会福祉学)(日本福祉大学)

2009年 修士(教授システム学)(熊本大学)

2017年 博士(学術)(熊本大学)

<免許・資格>:

○eLC認定 e-Learning Professional 資格(2009年)

・e-learning マネージャー

・ラーニングデザイナー

・e-learning エキスパート

・e-learning コンサルタント

・コンテンツクリエイター

○中学校社会科1種免許状(1995年)

○高等学校教諭1種免許状(公民)(1995年)

○養護教諭1種免許状(1995年)

○図書館司書資格(1999年)

○日本スノーボード協会(JSBA)1級(1996年)

○中型自動車運転免許(2011年)

<所属学会>: 日本教育工学会, 教育システム情報学会, 日本教育メディア学会, 大学教育学会, 大学行政管理学会, 日本リメディアル教育学会, 初年次教育学会, 日本カツオ学会,

<専門分野>: 教授システム学, インストラクショナル・デザイン(ID/教育設計), 教育工学, e-learning, FD・SD,

<研究課題>:

○インストラクショナル・デザイン(ID)手法を活用した, 効果的な授業方法(ICTを活用した授業改善・授業コンサルテーション)に関する研究

○高等教育機関における全学的な e-learning 推進に関わる研究

○FD・SD活動の普及要因に関わる研究

○学生能力開発における成長過程に関わる研究

○組織開発・組織変革に関わる研究

<部局内貢献>:

○第3部会(eラーニング推進部会)部会長

○教育デザイン室長(事業実施責任者)

1. 部門概要・業績

- eラーニング推進専門委員会委員
- 学修ポートフォリオ開発等に関する専門委員会委員
- テニユアトラック能力開発室委員
- 愛媛大学教育改革促進事業（愛大 GP）教育改革諮問委員会委員
- 愛媛大学「愛大 GP 事業」各 GP 運営委員
- メディアサポート映像部顧問教員（SCV）
- 総合情報メディアセンター会議 委員
- 総合情報メディアセンターコア会議 委員
- 授業コンサルテーション

<学外審議会・委員会貢献> :

- 日本教育工学会 企画委員会 委員, 2014～
- 日本リメディアル教育学会 ICT 活用部会 部長, 2017～
- 教員免許更新制高度化のための調査研究事業にかかる検討委員会委員, 2017～
- 文部科学省 大学間連携共同推進事業 運営委員
「学士力養成のための共通教育システムを活用した主体的学びの促進プログラム」, 幹事会委員, 2012～
- 文部科学省 国立大学改革強化推進事業 企画委員
「四国 5 大学連携による知のプラットフォーム形成事業」, 共同実施モデル検討WG主査校, 2012～2017
- e-Knowledge コンソーシアム四国企画委員, 2013～2017

<講演実績> :

- 学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計 - 課題分析図の活用 -. 愛媛大学 (2017.5.11). 講師
- 効果的なeラーニングの活用方法 (超入門編). 愛媛大学 (2017.5.18). 講師
- 平成 29 年度地域に生き地域とともに歩む高校生育成事業に係るプロジェクト・マネジメント研修. 愛媛県教育委員会. 愛媛大学 (2017.6.5). 講師
- 第 28 回授業デザインワークショップ (合宿形式). 今治湯浦ハイツホテル (2017.7.1-2). 講師
- 第 29 回授業デザインワークショップ (通い形式). 愛媛大学 (2017.8.30-9.1). 講師
- アクティブラーニング推進のための授業設計ワークショップ. 創価大学. ホテルコンチネンタル府中. 理工学部 (2017.9.4-5). 講師

- アクティブラーニング推進のための授業設計ワークショップ - フォローアップ研修 -. 創価大学 (2017.9.6). 講師
- 学習者の学習意欲を高めるためのインストラクショナル・デザイン (ID) 入門～ARCS 動機づけモデルの活用～. 愛媛大学 (2017.9.12). 講師
- eラーニング入門～きめ細やかな学習支援を実現しよう～. 愛媛大学 (2017.9.14). 講師
- 桜の聖母短期大学 三つの方針と評価と改善. FD 研修会. 桜の聖母短期大学 (2017.9.26-27). 講師
- 学習者の学習意欲を高める授業設計のためのインストラクショナル・デザイン (ID) 入門 - ARCS 動機づけモデルの活用 -. 高知県立大学 (2017.10.20). 講師
- インストラクショナルデザインを活用した看護技術教育の実践と発展, 愛媛県看護教員継続研修. 愛媛県立医療技術大学. 愛媛県保健福祉部社会福祉医療局医療対策課 (2017.12.9). 講師
- 学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法, 愛媛大学 (2017.12.14). 講師
- 学生の学習意欲を高める授業設計 - シラバスと授業構成の見直し -. 千歳科学技術大学理工学部 (2018.3.14). 講師
- アクティブラーニング推進のための授業設計ワークショップ. 創価大学. ホテルコンチネンタル府中. 理工学部 (2018.3.23-24). 講師

- アクティブラーニング推進のための授業設計ワークショップ. 創価大学. ホテルコンチネンタル府中. 教育学部・看護学部・文学部 (2018.3.25-26). 講師

<地域啓発活動・教育機関支援活動> :

- マネジメント能力開発研修. 平成 29 年度基本研修第 7 部・副課長級研修. 新居浜市役所. マリンパーク新居浜 (2017.4.21-22). 講師
- 私の目指す職員像～ポートフォリオ～. 平成 28 年度基本研修第 1 部・新人職員研修. 新居浜市役所. マリンパーク新居浜 (2017.9.13). 講師



佐々木 隆志

SASAKI Takashi

<生年月日> :

1974年3月16日

<職名> : 助教(兼)

<電話> : 089-927-8354

<FAX> : 089-927-8805

<E-mail> : sasaki@cite.ehime-u.ac.jp

<職歴> :

○京都科学技術専門学校(京都府京都市) 非常勤講師
(2001年4月~2003年3月)

○京都コンピュータ学院(京都府京都市) 非常勤講師
(2004年4月~2005年3月)

○国立国会図書館関西館(京都府精華町) 非常勤調査員
(2004年6月~2007年2月)

○京都大学大学院情報学研究科産学官連携研究員
(2004年10月~2005年3月)

○奈良産業大学(奈良県生駒郡) 情報学部非常勤講師
(2005年4月~2007年2月)

○京都大学大学院情報学研究科産学官連携研究員
(2005年12月~2006年3月)

○京都大学大学院情報学研究科産学官連携研究員
(2006年12月~2007年2月)

○愛媛大学総合情報メディアセンター助手 (2007年2月)

○愛媛大学経営情報分析室助教 (2013年10月)

<学歴> :

○京都大学理学部卒業(物理学専攻) (1998年3月)

○奈良先端科学技術大学院大学情報学研究科博士前期課程修了 (2000年3月)

○京都大学大学院情報学研究科博士後期課程単位取得

退学 (2004年3月)

<学位> : 2000年修士(工学) (奈良先端科学技術大学院大学)

<所属学会> : 情報処理学会, IEEE

<専門分野> : 情報ネットワーク, 自律分散協調型システム, モバイルコンピューティング, e-Learning

<研究課題> :

○e-Learning システムのデザインと効果分析

○自律分散ネットワーク

○大規模分散ストレージ及びデジタルアーカイブ

○自律分散音響測位システム

<部局内貢献>

○EPOCH@まつやま実行委員 (2007年度~)

○eラーニング推進検討ワーキンググループ (2009年度~)

○CSIRT(情報セキュリティ対策チーム) (2016年度~)

<学外審議会・委員会活動> :

○e-Knowledge コンソーシアム四国企画委員

○システム専門委員 (2008年~)

○eまつやま最先端技術研究会理事 (2010年度~)

○情報処理学会四国支部評議員 (2010年度~)

○Treasurer of IEEE Shikoku Section (2011年~)

○国立国会図書館デジタルアーカイブシステム技術審査委員

○日本 Android の会四国支部

○愛媛情報セキュリティ研究会 (通称セキュリティみかん)

○オープンセミナー愛媛実行委員

○オープンソースカンファレンス愛媛実行委員

○情報セキュリティシンポジウム道後実行委員

○Code for DOGO 委員 (2015年3月~)

2. 教育研究実績

(1) 研究活動

【著書】

野口 一人

○情報リテラシー入門 2018年版」, 野口一人, 分担執筆 第7章 情報利活用: プレゼンテーション, 2018年3月.

仲道 雅輝

○「大学生のための日本語問題集」, (編者) 山下由美子・中崎温子・仲道雅輝・湯川治敏・小松川浩, ナカニシヤ出版, 2017年.

○「大学初年次における日本語教育の実践—大学における学習支援への挑戦3—」(編者) 仲道雅輝・山下由美子・湯川治敏・小松川浩, ナカニシヤ出版, 2018年

【論文(過去5年間)】

中川 祐治

紀要・抄録

○黒目中心座標の高速検出と Saccade の検出頻度, 佐々木良・中川祐治, 平成27年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, pp.193, 2015.

○画像認識による玉葱頭部の判別, 吉本祐真・中川祐治, 平成27年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, pp.194, 2015.

○画像処理による玉葱の根の判定, 吉本祐真・中川祐治, 平成26年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, pp.210, 2014.

○全方向微分フィルタによる黒目中心検出の精度評価, 佐々木良・中川祐治, 平成26年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, pp.211, 2014.

○タブレットと家庭内PCによる Home Security System, 池田将隆・佐々木良・中川祐治, 平成26年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, pp.212, 2014.

○全方向微分フィルタによる黒目の検出, 宮内泰明・中川祐治, 平成25年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, pp.232, 2013.

野口 一人

国際学会発表論文

○Remote Seminar Trials of Fetal Echocardiography in Japan, K. Noguchi, The 7th Asia Telemedicine Symposium, Dec. 2013.

紀要・抄録・報告

○学術ネットワークを使った胎児心エコー遠隔セミナーの取り組み, 野口一人, 愛媛ジャーナル, 第31巻, 第10号, pp.77-79, 2018.

○学術ネットワーク(SINET)を使った胎児心エコーセミナーの報告, 川瀧元良・清水周次・安徳恭彰・工藤孔梨子・波々伯部佳子・野口一人, 魚瀬尚朗, 日本遠隔医療学会雑誌, 第11巻, 第2号, pp.84-87, 2015.

○[特別講演]超広帯域映像伝送技術の研究開発, 野口一人, 映像情報メディア学会技術報告, No.35, BCT2014-79, 2014.

2. 教育研究実績

川原 稔

原著論文

- An Evaluation of Coding Violation Focusing on Change History and Authorship of Source File, Aji Ery Burhandenny・Hirohisa Aman・Minoru Kawahara, International Journal of Networked and Distributed Computing, vol. 5, no. 4, pp. 211-220, 2017.
- Change-Prone Java Method Prediction by Focusing on Individual Differences in Comment Density, Aji Ery Burhandenny・Hirohisa Aman・Minoru Kawahara, IEICE Transactions on Information and Systems, vol. E100-D, no. 5, pp. 1128-1131, 2017.
- 決定木を用いた Java メソッドの名前と実装の適合性評価法の提案, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, ソフトウェア工学の基礎 XXIV, pp. 63-72, 近代科学社, 2017.
- Lines of Comments as a Noteworthy Metric for Analyzing Fault-Proneness in Methods, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, IEICE Transactions on Information and Systems, Vol. E98-D, No. 12, pp. 2218-2228, 2015.
- 変数名とスコープの長さ及びコメントに着目したフォールト潜在性に関する定量的調査, 阿萬裕久・天寄聡介・佐々木隆志・川原稔, ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム 2015 論文集, pp. 69-76, 2015.
- テストケースのクラスタリングと 0-1 計画モデルを組み合わせた回帰テストの効率化, 阿萬裕久・佐々木愛美・中野隆司・小笠原秀人・佐々木隆志・川原稔, コンピュータソフトウェア, Vol. 32, No. 3, pp. 111-125, 2015.
- 印刷文字を閲覧する際の視条件評価チャートの提案, 高橋信行・川原稔, 日本ロービジョン学会誌, Vol. 14, pp. 58-67, 2014.
- オープンソース開発におけるコードクローン含有率の収束傾向に関する調査, 本田暁・阿萬裕久・佐々木隆志・川原稔, 電子情報通信学会論文誌 D, Vol. J97-D, No. 7, pp. 1213-1215, 2014.
- Group replica caching scheme for optical grid networks, Optical Switching and Networking 10, Kouji Hirata and Minoru Kawahara, Vol. 10, pp. 223-232, 2013.
- 視覚特性評価に基づいた電子黒板への教材提示法, 高橋信行・川原稔・佐々木隆志・荻田知則, 日本ロービジョン学会誌, Vol. 12, pp. 42-54, 2012.
- Contention resolution considering multicast traffic in optically burst-switched WDM networks, Kouji Hirata and Minoru Kawahara, Photonic Network Communications, Springer, Vol. 23, No. 2, pp. 157-165, 2012.

国際学会発表論文

- A Survival Analysis of Source Files Modified by New Developers, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Tomoyuki Yokogawa・Minoru Kawahara, M. Felderer, D. M. Fernández, B. Turhan, M. Kalinowski, F. Sarro, D. Winkler (Eds.) Product-Focused Software Process Improvement, Lecture Notes in Computer Science, vol. 10611, pp. 80-88, Springer, 2017.
- Empirical Study of Abnormalities in Local Variables of Change-Prone Java Methods, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Tomoyuki Yokogawa・Minoru Kawahara, Proc. 2017 IEEE 28th International Symposium on Software Reliability Engineering Workshops, pp. 214-221, 2017.
- Empirical Analysis of Words in Comments Written for Java Methods, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Tomoyuki Yokogawa・Minoru Kawahara, Proc. 2017 43rd Euromicro Conference on Software Engineering and Advanced Applications (SEAA2017), pp. 375-379, 2017.
- An Application of the PageRank Algorithm to Commit Evaluation on Git Repository, Sho Suzuki・Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Tomoyuki Yokogawa・Minoru Kawahara, Proc. 2017 43rd Euromicro Conference on Software

2. 教育研究実績

Engineering and Advanced Applications (SEAA2017), pp.380–383, 2017.

○Empirical Study of Fault-Prone Method's Name and Implementation: Analysis on Three Prefixes---Get, Set and Be, Sho Suzuki · Hirohisa Aman · Minoru Kawahara, Proc. 2nd International Conference on Big Data, Cloud Computing, Data Science & Engineering (BCD 2017), pp.266–271, 2017.

○Investigation of Coding Violations Focusing on Authorships of Source Files, Aji Ery Burhandenny · Hirohisa Aman · Minoru Kawahara, Proc. 2nd International Conference on Big Data, Cloud Computing, Data Science & Engineering (BCD 2017), pp.254–259, 2017.

○A Health Index of Open Source Projects Focusing on Pareto Distribution of Developer's Contribution, Hirohisa Aman · Aji Ery Burhandenny · Sousuke Amasaki · Tomoyuki Yokogawa · Minoru Kawahara, Proc. IEEE 8th International Workshop on Empirical Software Engineering in Practice (IWESEP2017), pp.29–34, 2017.

○A Test Case Recommendation Method Based on Morphological Analysis, Clustering and the Mahalanobis-Taguchi Method, Hirohisa Aman · Takashi Nakano · Hideto Ogasawara · Minoru Kawahara, Proc. 10th IEEE International Conference on Software Testing, Verification and Validation Workshops, pp.29–35, 2017.

○A Health Index of Open Source Projects Focusing on Pareto Distribution of Developer's Contribution, Hirohisa Aman · Aji Ery Burhandenny · Sousuke Amasaki · Tomoyuki Yokogawa · Minoru Kawahara, Proc. IEEE 8th International Workshop on Empirical Software Engineering in Practice (IWESEP2017), pp.29–34, 2017.

○A Test Case Recommendation Method Based on Morphological Analysis, Clustering and the Mahalanobis-Taguchi Method, Hirohisa Aman · Takashi Nakano · Hideto Ogasawara · Minoru Kawahara, Proc. 10th IEEE International Conference on Software Testing, Verification and Validation Workshops, pp.29–35, 2017.

○Examination of Coding Violations Focusing on Their Change Patterns over Releases, Aji Ery Burhandenny · Hirohisa Aman · Minoru Kawahara, Proc. 23rd Asia-Pacific Software Engineering Conference (APSEC 2016), pp.121–128, 2016.

○Local Variables with Compound Names and Comments as Signs of Fault-Prone Java Methods, Hirohisa Aman · Sousuke Amasaki · Tomoyuki Yokogawa · Minoru Kawahara, Joint Proc. the 4th International Workshop on Quantitative Approaches to Software Quality (QuASoQ2016) and 1st International Workshop on Technical Debt Analytics (TDA 2016), pp.4–11, 2016.

○Application of Mahalanobis-Taguchi Method and 0-1 Programming Method to Cost-Effective Regression Testing, Hirohisa Aman · Yuta Tanaka · Takashi Nakano · Hideto Ogasawara · Minoru Kawahara, Proc. 2016 42nd Euromicro Conference on Software Engineering and Advanced Applications (SEAA2016), pp.240–244, 2016.

○Empirical Study of Change-Prone and Fault-Prone Method Prediction Focusing on Comment Ownership, Aji Ery Burhandenny · Takashi Nakano · Hirohisa Aman · Minoru Kawahara, Proc. 2016 International Conference on Business and Information (BAI2016), vol.8, pp.219–230, 2016.

○Empirical Analysis of Change-Proneness in Methods Having Local Variables with Long Names and Comments, Hirohisa Aman · Sousuke Amasaki · Takashi Sasaki · Minoru Kawahara, Proc. 9th ACM/IEEE International Symposium on Empirical Software Engineering and Measurement (ESEM2015), pp.50–53, 2015.

○Predicting Fault-Prone Methods Focusing on the Combination of Inner Comments and Documentation Comments, Hirohisa Aman · Sousuke Amasaki · Takashi Sasaki · Minoru Kawahara, Proc. Work in Progress Session held in connection with SEAA2015 and DSS 2015, pp.3–4, 2015.

○Empirical Analysis of Fault-proneness in Methods by Focusing on their Comment Lines, Hirohisa Aman · Sousuke Amasaki · Takashi Sasaki · Minoru Kawahara, Proc. 21st Asia-Pacific Software Engineering Conference

2. 教育研究実績

(APSEC2014), Vol. 2, pp. 51-56, 2014.

○Empirical analysis of comments and fault-proneness in methods: can comments point to faulty methods?, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. 8th ACM/IEEE International Symposium on Empirical Software Engineering and Measurement (ESEM2014), pp.63, 2014.

○Multistage Growth Model for Code Change Events in Open Source Software Development: An Example using Development of Nagios, Hirohisa Aman・Akiko Yamashita・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. 2014 40th Euromicro Conference on Software Engineering and Advanced Applications (SEAA2014), pp.207-212, 2014.

紀要・抄録・報告

○トピックの変化量に着目したソースコードの変更量分析に関する考察, 矢野博暉・阿萬裕久・川原稔, 情報処理学会ソフトウェア工学研究報告, vol.2018-SE-198, no. 30, pp.1-8, 2018.

○Java ソースファイルの開発者数とバグ修正の起こりやすさに関する調査 ～ソースファイル間の依存関係に着目した解析～, 山内一輝・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告, vol. 117, no. 136, pp. 67-72, 2017.

○バグ予測に向けた Java メソッドの名前と実装の特徴の関係に関する考察, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告, vol. 116, no. 512, pp. 25-30, 2017.

○バグ予測に向けた Java メソッドの名前と実装の特徴の関係に関する考察, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告, vol. 116, no. 512, pp. 25-30, 2017.

○メソッド名の先頭単語とソースコードの安定性に関する考察, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, ソフトウェア工学の基礎 XXIII, pp. 247-248, 近代科学社, 2016.

○一人で開発・保守が行われているソースファイルの品質について, 山内一輝・阿萬裕久・川原稔, ソフトウェア工学の基礎 XXIII, pp. 251-252, 近代科学社, 2016.

○ソースコードの変更予測に向けたメソッド名の先頭単語に関する定量的調査, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, 情報処理学会ソフトウェア工学研究報告, vol. 2016-SE-194, no. 6, pp. 1-8, 2016.

○コード行数に基づいた開発者の貢献度とそのエントロピーを用いた OSS プロジェクトの分析, 山内一輝・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告 vol. 116, no. 127, pp. 131-136, 2016.

○メソッド名の長さや構成に着目したソースコード品質に関する定量的調査, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告 vol. 116, no. 127, pp. 137-142, 2016.

○オープンソース開発における開発者の貢献度とソースコード品質の関係について, 山内一輝・阿萬裕久・川原稔, 情報処理学会ウインターワークショップ 2016・イン・逗子 論文集, pp. 41-42, 2016.

○プログラム依存グラフ上での命令間の距離に着目した凝集度メトリクスの提案とバグ予測への応用, 加藤健太・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告, vol. 115, no. 421, pp. 1-6, 2016.

○共変更の新しさと開発者の貢献度合いに着目したロジカルカップリングの評価---ソースコード修正漏れの自動検出に向けて---, 尾田祐之介・阿萬裕久・川原稔, 情報処理学会研究報告ソフトウェア工学, Vol. 2015-SE-190, No. 17, pp. 1-8, 2015.

○開発者の違いを考慮したコメント記述量の評価とバグ予測への応用, 中野貴史・阿萬裕久・川原稔, ソフトウェア信頼性研究会 第 11 回ワークショップ論文集, オンライン, 2015.

○オープンソース開発における開発者ごとでのコメント記述の傾向に関する調査, 中野貴史・佐々木隆志・川原稔・阿萬裕久, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol. 115, No. 153, pp. 125-130, 2015.

○オープンソース開発におけるコーディング規約違反の発生と解消の動向に関する調査, 織田泰輔・阿萬裕久・佐々木隆志・川原稔, ソフトウェア信頼性研究会 第 10 回ワークショップ論文集, CD-ROM, 2014.

○オープンソース開発でのコード修正におけるコーディング規約違反の変化に関する調査, 織田泰輔・阿萬裕久・

2. 教育研究実績

佐々木隆志・川原 稔, 情報処理学会ソフトウェア工学研究報告, vol.2014-SE-186, no.3, pp.1-8, 2014.

阿萬 裕久

原著論文

○An Evaluation of Coding Violation Focusing on Change History and Authorship of Source File, Aji Ery Burhandenny・Hirohisa Aman・Minoru Kawahara, International Journal of Networked and Distributed Computing, vol.5, no.4, pp.211-220, 2017.

○Change-Prone Java Method Prediction by Focusing on Individual Differences in Comment Density, Aji Ery Burhandenny・Hirohisa Aman・Minoru Kawahara, IEICE Transactions on Information and Systems, vol.E100-D, no.5, pp.1128-1131, 2017.

○決定木を用いた Java メソッドの名前と実装の適合性評価法の提案, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, ソフトウェア工学の基礎 XXIV, pp.63-72, 近代科学社, 2017.

○設備故障が旅客に与える経済的損失を評価尺度とした鉄道信号設備のライフサイクルコストの低減に関する考察, 志田洋・大串裕都・樋上喜信・阿萬裕久・高橋寛, 電子情報通信学会論文誌 D, vol.J99-D, no.5, pp.539-548, 2016.

○Lines of Comments as a Noteworthy Metric for Analyzing Fault-Proneness in Methods, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, IEICE Transactions on Information and Systems, Vol.E98-D, No.12, pp.2218-2228, 2015.

○変数名とスコープの長さ及びコメントに着目したフォールト潜在性に関する定量的調査, 阿萬裕久・天寄聡介・佐々木隆志・川原稔, ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム 2015 論文集, pp.69-76, 2015.

○テストケースのクラスタリングと 0-1 計画モデルを組み合わせた回帰テストの効率化, 阿萬裕久・佐々木愛美・中野隆司・小笠原秀人・佐々木隆志・川原稔, コンピュータソフトウェア, Vol.32, No.3, pp.111-125, 2015.

○大規模 OSS 開発における不具合修正時間の短縮化を目的としたバグトリージ手法, 柏祐太郎・太平雅雄・阿萬裕久・亀井靖高, 情報処理学会論文誌, Vol.56, No.2, pp.669-681, 2015.

○Feature Envy とコメント文の関連性に関する考察, 藤井里沙・天寄聡介・阿萬裕久・横川智教, ソフトウェア工学の基礎 XXI, pp.69-74, 近代科学社, 2014.

○テストケースの実行履歴に基づいたクラスタリングと 0-1 計画モデルを組み合わせた回帰テスト計画手法の提案, 阿萬裕久・佐々木愛美・中野隆司・小笠原秀人, ソフトウェア工学の基礎 XXI, pp.231-240, 近代科学社, 2014.

○0-1 整数計画問題を利用した欠陥検出向けテストパターン選択法, 志田洋・樋上喜信・阿萬裕久・高橋寛・ケーワルサルージャ, 日本信頼性学会誌, Vol.36, No.8, pp.501-510, 2014.

○オープンソース開発におけるコードクローン含有率の収束傾向に関する調査, 本田暁・阿萬裕久・佐々木隆志・川原稔, 電子情報通信学会論文誌 D, Vol.J97-D, No.7, pp.1213-1215, 2014.

○テストの実施履歴とテスト項目間の関連情報を利用した効果的なテスト削減方法の提案と評価, 小笠原秀人・佐々木愛美・中野隆司・阿萬裕久, ソフトウェア・シンポジウム 2014 論文集, pp.147-151, 2014.

○0-1 計画モデルを用いたコードレビュー計画法におけるフィルタリングとその効果, 井上慎也・阿萬裕久, ソフトウェア工学の基礎 XX, pp.251-256, 2013.

○0-1 計画モデルを用いたコードレビュー計画法の有効性に関する実証的考察, 井上慎也・阿萬裕久, ソフトウェア・シンポジウム 2013 論文集, オンライン, 2013.

○数値計画モデルに基づいた効果的なテスト選択手法の提案と実践, 小笠原 秀人・佐々木 愛美・阿萬裕久, ソ

2. 教育研究実績

フトウェア・シンポジウム 2013 論文集, オンライン, 2013.

国際学会発表論文

○A Survival Analysis of Source Files Modified by New Developers, Hirohisa Aman • Sousuke Amasaki • Tomoyuki Yokogawa • Minoru Kawahara, M. Felderer, D. M. Fernández, B. Turhan, M. Kalinowski, F. Sarro, D. Winkler (Eds.) Product-Focused Software Process Improvement, Lecture Notes in Computer Science, vol. 10611, pp.80-88, Springer, 2017.

○Empirical Study of Abnormalities in Local Variables of Change-Prone Java Methods, Hirohisa Aman • Sousuke Amasaki • Tomoyuki Yokogawa • Minoru Kawahara, Proc. 2017 IEEE 28th International Symposium on Software Reliability Engineering Workshops, pp.214-221, 2017.

○Empirical Analysis of Words in Comments Written for Java Methods, Hirohisa Aman • Sousuke Amasaki • Tomoyuki Yokogawa • Minoru Kawahara, Proc. 2017 43rd Euromicro Conference on Software Engineering and Advanced Applications (SEAA2017), pp.375-379, 2017.

○An Application of the PageRank Algorithm to Commit Evaluation on Git Repository, Sho Suzuki • Hirohisa Aman • Sousuke Amasaki • Tomoyuki Yokogawa • Minoru Kawahara, Proc. 2017 43rd Euromicro Conference on Software Engineering and Advanced Applications (SEAA2017), pp.380-383, 2017.

○Empirical Study of Fault-Prone Method's Name and Implementation: Analysis on Three Prefixes---Get, Set and Be, Sho Suzuki • Hirohisa Aman • Minoru Kawahara, Proc. 2nd International Conference on Big Data, Cloud Computing, Data Science & Engineering (BCD 2017), pp.266-271, 2017.

○An Empirical Study on Relationships between Comments and Design Properties, Yuto Miyake • Sousuke Amasaki • Tomoyuki Yokogawa • Hirohisa Aman, Proc. 2nd International Conference on Big Data, Cloud Computing, Data Science & Engineering (BCD 2017), pp.260-265, 2017.

○Investigation of Coding Violations Focusing on Authorships of Source Files, Aji Ery Burhandenny • Hirohisa Aman • Minoru Kawahara, Proc. 2nd International Conference on Big Data, Cloud Computing, Data Science & Engineering (BCD 2017), pp.254-259, 2017.

○A Replicated Study on Relationship Between Code Quality and Method Comments, Yuto Miyake • Sousuke Amasaki • Hirohisa Aman • Tomoyuki Yokogawa, Applied Computing and Information Technology, Studies in Computational Intelligence 695, pp.17-30, Springer, 2017.

○A Health Index of Open Source Projects Focusing on Pareto Distribution of Developer's Contribution, Hirohisa Aman • Aji Ery Burhandenny • Sousuke Amasaki • Tomoyuki Yokogawa • Minoru Kawahara, Proc. IEEE 8th International Workshop on Empirical Software Engineering in Practice (IWESEP2017), pp.29-34, 2017.

○A Test Case Recommendation Method Based on Morphological Analysis, Clustering and the Mahalanobis-Taguchi Method, Hirohisa Aman • Takashi Nakano • Hideto Ogasawara • Minoru Kawahara, Proc. 10th IEEE International Conference on Software Testing, Verification and Validation Workshops, pp.29-35, 2017.

○Examination of Coding Violations Focusing on Their Change Patterns over Releases, Aji Ery Burhandenny • Hirohisa Aman • Minoru Kawahara, Proc. 23rd Asia-Pacific Software Engineering Conference (APSEC 2016), pp.121-128, 2016.

○Local Variables with Compound Names and Comments as Signs of Fault-Prone Java Methods, Hirohisa Aman • Sousuke Amasaki • Tomoyuki Yokogawa • Minoru Kawahara, Joint Proc. the 4th International Workshop on Quantitative Approaches to Software Quality (QuASoQ2016) and 1st International Workshop on Technical Debt Analytics (TDA 2016), pp.4-11, 2016.

2. 教育研究実績

- Application of Mahalanobis-Taguchi Method and 0-1 Programming Method to Cost-Effective Regression Testing, Hirohisa Aman · Yuta Tanaka · Takashi Nakano · Hideto Ogasawara · Minoru Kawahara, Proc. 2016 42nd Euromicro Conference on Software Engineering and Advanced Applications (SEAA2016), pp.240-244, 2016.
- Empirical Study of Change-Prone and Fault-Prone Method Prediction Focusing on Comment Ownership, Aji Ery Burhandenny · Takashi Nakano · Hirohisa Aman · Minoru Kawahara, Proc. 2016 International Conference on Business and Information (BAI2016), vol.8, pp.219-230, 2016.
- Behavior Analysis of Self-Evolving Botnets, Takanori Kudo · Tomotaka Kimura · Yoshiaki Inoue · Hirohisa Aman · Kouji Hirata, Proc. 2016 International Conference on Computer, Information and Telecommunication Systems (CITS2016), pp.1-5, 2016.
- Empirical Analysis of Change-Proneness in Methods Having Local Variables with Long Names and Comments, Hirohisa Aman · Sousuke Amasaki · Takashi Sasaki · Minoru Kawahara, Proc. 9th ACM/IEEE International Symposium on Empirical Software Engineering and Measurement (ESEM2015), pp.50-53, 2015.
- Predicting Fault-Prone Methods Focusing on the Combination of Inner Comments and Documentation Comments, Hirohisa Aman · Sousuke Amasaki · Takashi Sasaki · Minoru Kawahara, Proc. Work in Progress Session held in connection with SEAA2015 and DSS 2015, pp.3-4, 2015.
- A Proposal of Maintenance Cost Model of Track Circuits, Hiroshi Shida · Hirofumi Oogushi · Yoshinobu Higami · Hirohisa Aman · Hiroshi Takahashi, Proc. 9th International Conference on Mathematical Methods in Reliability: Theory, Methods and Applications (MMR 2015), pp.408-415, 2015.
- Empirical Analysis of Fault-proneness in Methods by Focusing on their Comment Lines, Hirohisa Aman · Sousuke Amasaki · Takashi Sasaki · Minoru Kawahara, Proc. 21st Asia-Pacific Software Engineering Conference (APSEC2014), Vol.2, pp.51-56, 2014.
- Empirical analysis of comments and fault-proneness in methods: can comments point to faulty methods?, Hirohisa Aman · Sousuke Amasaki · Takashi Sasaki · Minoru Kawahara, Proc. 8th ACM/IEEE International Symposium on Empirical Software Engineering and Measurement (ESEM2014), pp.63, 2014.
- How Developers Comment on Code Smell? An Empirical Analysis on Feature Envy, Sousuke Amasaki · Tomoyuki Yokogawa · Risa Fujii · Hirohisa Aman, Proc. Work in Progress Session held in connection with SEAA 2014 and DSD 2014, pp.1-2, 2014.
- Multistage Growth Model for Code Change Events in Open Source Software Development: An Example using Development of Nagios, Hirohisa Aman · Akiko Yamashita · Takashi Sasaki · Minoru Kawahara, Proc. 2014 40th Euromicro Conference on Software Engineering and Advanced Applications (SEAA2014), pp.207-212, 2014.
- Application of the test select method using mathematical programming model, Hideto OGASAWARA · Manami SASAKI · Takashi NAKANO · Hirohisa AMAN, Proc. 21st European System, Software and Service Process Improvement and Innovation, 2014.
- 0-1 Programming Model-Based Method for Planning Code Review using Bug Fix History, Hirohisa Aman, Proc. 5th International Workshop on Empirical Software Engineering in Practice (IWESEP2013), pp.37-42, 2013.
- Application of the 0-1 Programming Model for Cost-Effective Regression Test, Hirohisa Aman · Manami Sasaki · Kei Kureishi · Hideto Ogasawara, Proc. 37th IEEE Annual International Computer Software & Applications Conference (COMPSAC2013), pp.721-722, 2013.

紀要・抄録・報告

- トピックの変化量に着目したソースコードの変更量分析に関する考察, 矢野博暉 · 阿萬裕久 · 川原稔, 情報処

2. 教育研究実績

理学会ソフトウェア工学研究報告, vol. 2018-SE-198, no. 30, pp. 1-8, 2018.

○Java ソースファイルの開発者数とバグ修正の起こりやすさに関する調査 ～ソースファイル間の依存関係に着目した解析～, 山内一輝・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告, vol. 117, no. 136, pp. 67-72, 2017.

○バグ予測に向けた Java メソッドの名前と実装の特徴の関係に関する考察, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告, vol. 116, no. 512, pp. 25-30, 2017.

○メソッド名の先頭単語とソースコードの安定性に関する考察, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, ソフトウェア工学の基礎 XXIII, pp. 247-248, 近代科学社, 2016.

○一人で開発・保守が行われているソースファイルの品質について, 山内一輝・阿萬裕久・川原稔, ソフトウェア工学の基礎 XXIII, pp. 251-252, 近代科学社, 2016.

○ソースコードの変更予測に向けたメソッド名の先頭単語に関する定量的調査, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, 情報処理学会ソフトウェア工学研究報告, vol. 2016-SE-194, no. 6, pp. 1-8, 2016.

○コード行数に基づいた開発者の貢献度とそのエントロピーを用いた OSS プロジェクトの分析, 山内一輝・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告 vol. 116, no. 127, pp. 131-136, 2016.

○メソッド名の長さや構成に着目したソースコード品質に関する定量的調査, 鈴木翔・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告 vol. 116, no. 127, pp. 137-142, 2016.

○オープンソース開発における開発者の貢献度とソースコード品質の関係について, 山内一輝・阿萬裕久・川原稔, 情報処理学会ウインターワークショップ 2016・イン・逗子 論文集, pp. 41-42, 2016.

○プログラム依存グラフ上での命令間の距離に着目した凝集度メトリクスの提案とバグ予測への応用, 加藤健太・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告, vol. 115, no. 421, pp. 1-6, 2016.

○共変更の新しいさと開発者の貢献度合いに着目したロジカルカップリングの評価---ソースコード修正漏れの自動検出に向けて---, 尾田祐之介・阿萬裕久・川原稔, 情報処理学会研究報告ソフトウェア工学, Vol. 2015-SE-190, No. 17, pp. 1-8, 2015.

○開発者の違いを考慮したコメント記述量の評価とバグ予測への応用, 中野貴史・阿萬裕久・川原稔, ソフトウェア信頼性研究会 第 11 回ワークショップ論文集, オンライン, 2015.

○オープンソース開発における開発者ごとのコメント記述の傾向に関する調査, 中野貴史・佐々木隆志・川原稔・阿萬裕久, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol. 115, No. 153, pp. 125-130, 2015.

○オープンソース開発におけるコーディング規約違反の発生と解消の動向に関する調査, 織田泰輔・阿萬裕久・佐々木隆志・川原稔, ソフトウェア信頼性研究会 第 10 回ワークショップ論文集, CD-ROM, 2014.

○オープンソース開発でのコード修正におけるコーディング規約違反の変化に関する調査, 織田泰輔・阿萬裕久・佐々木隆志・川原稔, 情報処理学会ソフトウェア工学研究報告, vol. 2014-SE-186, no. 3, pp. 1-8, 2014.

○オープンソース開発におけるソースコード変更予測に向けた成長曲線モデルの多段的利用について, 山下彰子・阿萬裕久, 情報処理学会ウインターワークショップ 2014・イン・大洗論文集, pp. 93-94, 2014.

○コメントの記述位置の違いに着目したフォールト潜在性の分析 ---メソッドの前に書かれるコメントとメソッドの中に書かれるコメント---, 阿萬裕久, 情報処理学会ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム 2013 併設ワークショップ 「開発マネジメントにおける産学の問題共有と連携強化」 予稿集, オンライン, 2013.

○数理計画モデルを用いたコードレビュー計画に対するフィルタリングの効果について, 井上慎也・阿萬裕久, 電子情報通信学会技術報告, Vol. 113, No. 159, SS2013-31, pp. 109-114, 2013.

○小規模プログラムにおけるコメント行数とフォールト潜在性の関係に関する調査, 阿萬裕久, 電子情報通信学会技術報告, Vol. 113, No. 24, SS2013-12, pp. 67-72, 2013.

○0-1 計画モデルを利用したメソッド単位でのコードレビュー計画について, 井上慎也・阿萬裕久, ウインターワ

2. 教育研究実績

ークショップ 2013・イン・那須論文集, pp.27-28, 2013.

○0-1 整数計画法を用いた不具合修正タスクの割当支援, 柏祐太郎・大平雅雄・阿萬裕久, ウインターワークショップ 2013・イン・那須論文集, pp.19-20, 2013.

仲道 雅輝

原著論文

○ “A case study of university-wide effects of e-learning promotion activities”, Masaki NAKAMICHI, Junko NEMOTO, Toshihiro KITA, Hiroshi NAKANO, Katsuaki SUZUKI, International Journal for Education Media and Technology 2017, Vol. 11, No. 1, pp. 34-41. 2017.

○ 「日本語リテラシー教育における高大接続-eラーニングの活用とその効果」, 秋山英治・仲道雅輝・八木昌生・谷口浩一・松本浩司・三好徹明・光宗宏司, 日本リメディアル教育研究第11号第1巻, pp.1-12. 2016.

○ 「e-learning の全学的普及推進に向けた実践研究-効果的な普及方略に関する一考察-」, 仲道雅輝・佐藤慎一・根本淳子・喜多敏博・中野裕司・鈴木克明, 教育システム情報学会誌 Vol33, No3, pp. 149-154, 2016.

○ 「e-learning を活用した臨地実習の事前学習「周手術期看護:手術直後の患者の観察と対処方法」の取り組み」, 山下 奈緒子・福田 里砂・山脇 孝・仲道 雅輝・根本 淳子・都築 和宏・中村 勝, 愛媛大学教育・学生支援機構大学教育実践ジャーナル第13号, pp. 81-88, 2016.

○ 「eラーニングを活用した高大接続プログラム「日本語リテラシー」に対する生徒の意識と学習観」, 秋山英治・仲道雅輝・都築和宏・彦田純也・八木昌夫・谷口浩一・松本浩司・三好徹明・光宗宏司, 愛媛大学教育・学生支援機構大学教育実践ジャーナル第13号, pp. 97-104, 2016.

○ 「学生にとって初めてのフルオンライン型ラーニング科目の履修動向と学習継続支援:実践からの一考察」, 根本淳子・吉田明恵・仲道雅輝・田中寿郎, 愛媛大学教育・学生支援機構大学教育実践ジャーナル第13号, pp. 75-80, 2016.

国際学会発表論文

○ 「A case study of university-wide effects of e-learning promotion activities」, Masaki Nakamichi, Junko NEMOTO, Toshihiro KITA, Hiroshi NAKANO, Katsuaki SUZUKI, A paper presented at ICoME (International Conference on Media in Education), Kyoto University of foreign Studies, Kyoto, Japan, pp.158-163. 2016.

紀要・抄録・報告

○ 『学生への「学びのチェックシート」導入とその活用』加藤竜哉, 中嶋輝明, 望月雅光, 山下由美子, 湯川治敏, 尼崎光洋, 仲道雅輝, 日永龍彦, 山川広人, 日本リメディアル教育学会全国大会 (日本文理大学), pp. 90-91. 2017. 8. 21

○ 「情報教育における高大接続の試み」秋山英治, 仲道雅輝, 都築和宏, 光宗宏司, 三好徹明, 日本リメディアル教育学会全国大会 (日本文理大学), pp. 72-73. 2017. 8. 21

○ 「ルーブリック評価結果を利用したS-P表分析の検討」久保田真一郎, 松葉龍一, 平岡齊士, 宮崎誠, 仲道雅輝, 日本教育工学会全国大会 (島根大学), pp. 459-460. 2017. 9. 16-18

○ 『大学における e-learning 普及推進策の「イノベーション決定過程の段階モデル」による一考察』仲道雅輝, 根本淳子, 喜多敏博, 中野裕司, 鈴木克明, 日本教育工学会全国大会 (島根大学), pp. 409-410. 2017. 9. 16-18

○ 「eラーニングを活用した日本語・英語共同学習教材の有効性について」秋山英治, 仲道雅輝, 初年次教育学会第10回大会 (中部大学), pp. 138-139. 2017. 9. 7

○ 「教務システムとMoodleとのデータ連携によるLMS活用科目および活用教員の増加」仲道雅輝, 増田隆司, 大

2. 教育研究実績

- 学 e ラーニング協議会/日本リメディアル教育学会合同フォーラム 2017 (岩手県立大学), pp. 12-15. 2018. 2. 28
- 「日本語文章作成支援ツールとしての話しことばチェッカー開発に向けて」山下由美子, 加藤竜哉, 湯川治敏, 小松川浩, 仲道雅輝, 秋山英治, 山川広人, 大学 e ラーニング協議会/日本リメディアル教育学会合同フォーラム 2017 (岩手県立大学), pp. 70-73. 2018. 3. 1
- 「日本人大学生における話し言葉の認識について」秋山英治, 山下由美子, 湯川治敏, 小松川浩, 加藤竜哉, 仲道雅輝, 山川広人, 大学 e ラーニング協議会/日本リメディアル教育学会合同フォーラム 2017 (岩手県立大学), pp. 78-82. 2018. 3. 1
- 「ICTを活用した授業における再履修者の取組について」秋山英治, 仲道雅輝, 都築和宏, 彦田順也, 八木昌生, 谷口浩一, 松本浩司, 光宗宏司, 三好徹明, 上床孝樹第 24 回大学教育研究フォーラム (京都大学), 2018. 3. 20
- 「高等教育における e-learning の普及方策—愛媛大学教育デザイン室の取り組み—」仲道雅輝, 大学教育と情報 No4, 私立大学情報教育協会, pp. 31-34. 2017. 3
- 「アクティブラーニングを取り入れた授業設計のための教員研修の改善と評価」加地真弥・根本淳子・仲道雅輝・小林直人・関田一彦・望月雅光, 日本教育工学会研究会報告集 (香川大学), pp. 1-4. 2016. 3. 5
- 「自立型人材の育成を目指した愛媛大学の取り組み」仲道雅輝・都築和宏・平田浩一・藤岡克則・秋山英治・庭崎隆・山崎哲司・田中寿郎, 大学 e ラーニング協議会総会, pp. 34-35. 2016. 3. 17
- 「e ラーニングを活用した日本語教育システムの開発—平成 24 年度から平成 27 年度までの取組—」秋山英治・仲道雅輝・仲本康一郎・山川広人・松浦年男・山下由美子・湯川治敏・中崎温子・二瓶由美子, 大学 e ラーニング協議会総会, pp. 32-33. 2016. 3. 17
- 「自律的な授業改善サイクルを促すための教員研究の改善と評価」加地真弥・根本淳子・仲道雅輝・小林直人・関田一彦・望月雅光, 日本教育工学会研究会 (大阪大学) 発表論文集, pp. 1-4. 2016. 5. 21
- 「プレースメントテストの実施時間と出題順が解答率と正答率に及ぼす影響」仲道雅輝・秋山英治・都築和宏 日本リメディアル教育学会全国大会発表論文集 (大阪国際大学), pp. 154-155. 2016. 8. 24
- 「日本語リテラシー教育は少人数でしかおこなえないのか」秋山英治・仲道雅輝・都築和宏, 日本リメディアル教育学会全国大会発表論文集 (大阪国際大学), pp. 114-115. 2016. 8. 25
- 「パリッシュの学習者要因に着目した授業改善ヒント集の開発」仲道雅輝・根本淳子, 初年次教育学会全国大会 (四国大学) 発表論文集, pp. 70-71. 2016. 9. 11
- 「高大接続でおこなう日本語リテラシー教育—e ラーニングを活用した日本語リテラシー教育の有効性—」秋山英治・仲道雅輝, 初年次教育学会全国大会 (四国大学) 発表論文集, pp. 116-117. 2016. 9. 11
- 「Parrish の学習経験の質モデルの学習者要因に着目した学習経験自己評価表の開発」仲道雅輝・根本淳子・竹岡篤永・高橋暁子・鈴木克明, 日本教育工学会全国大会発表論文集 (大阪大学), pp. 681-682. 2016. 9. 18
- 「高大接続で取り組む日本語リテラシー教育—高校生たちは、どのように e ラーニングに取り組み、どのように成長したのか—」秋山英治・仲道雅輝・都築和宏・三好徹明, 日本リメディアル教育学会東北支部研究会 (桜の聖母短期大学). 2016. 12. 3
- 「e ラーニングを用いたブレンド型授業における TA・SA の活用と成果」, 秋山英治・仲道雅輝, 大学教育学会第 37 回大会発表要旨集録 (長崎大学), pp. 120-121, 2015. 6. 7
- 「全学的な e ラーニング普及推進の方策と成果」, 仲道雅輝・根本淳子・鈴木克明, 大学教育学会第 37 回大会発表要旨集録 (長崎大学), pp. 150-151, 2015. 6. 7
- 「初年次教育から専門教育への接続」, 秋山英治・仲道雅輝, 日本リメディアル教育学会全国大会 (北星学園大学) 発表論文集, pp. 64-65, 2015. 8. 29
- 「プレースメントテストの実施が学ぶ姿勢の形成と主体性に及ぼす影響」, 仲道雅輝・秋山英治・都築和宏, 日

2. 教育研究実績

本リメディアル教育学会全国大会（北星学園大学）発表論文集， pp. 150-151， 2015. 8. 29

○「四国国立5大学における共通シラバスと履修プロセスの開発」， 吉田明恵・仲道雅輝・根本淳子・田中寿郎・林敏浩・村井礼・金西計英・宮下晃一・立川明， 教育システム情報学会全国大会（徳島大学）発表論文集， pp. 293-294， 2015. 9. 2

○「高大連携における e ラーニングの導入について」， 秋山英治・仲道雅輝， 初年次教育学会全国大会（明星大学）発表論文集， pp. 154-155， 2015. 9. 4

○「新たな教員研修モデル開発のための FD ワークショップ実践報告」， 加地真弥・根本淳子・仲道雅輝・小林直人・関田一彦・望月雅光， 日本教育工学会第 31 回全国大会（東京電気大学）発表論文集， pp. 173-174， 2015. 9. 21

○「大学における e-Learning 活用支援が授業改善に対する教員の認識に及ぼす影響—支援体制の充実に向けたアンケート結果から—」， 仲道雅輝・根本淳子・鈴木克明， 日本教育工学会第 31 回全国大会（東京電気大学）発表論文集， pp. 601-602， 2015. 9. 22

○「四国地区5国立大学連携における e-Learning 教育を円滑運営するための著作権処理の提案」， 村井礼・金西計英・高橋暁子・竹口幸志・田中寿郎・根本淳子・仲道雅輝・三好康夫・林敏浩， 教育システム情報学会第 40 回全国大会（徳島大学）発表論文集， pp. 297-298， 2015. 9. 2

○「非同期遠隔型オンライン学習における個別化された学習ポータルサイトの構築に関する検討」， 高橋暁子・根本淳子・竹岡篤永・仲道雅輝， 情報処理学会 CLE 研究会， 研究報告コンピュータと教育（CE）. 2015-CE-132 巻， 36 号， pp. 1-4， 2015. 12. 6

○「症例ベースの e ラーニング教材を使用した卒前・卒後共通シミュレーション医療教育プログラムの開発」， 山脇孝・仲道雅輝・根本淳子・山下奈緒子・福田里沙・寺尾奈歩子・小西円， 第 7 回日本医療教授システム学会総会（東京大学）ポスター発表 P-A4， プログラム抄録集， pp. 61， 2015. 3. 5

○「e ラーニングにおける TA と SA の活用について」， 秋山英治・仲道雅輝， 大学 e ラーニング協議会合同フォーラム 2014（創価大学）発表論文集， pp. 15-16， 2015. 2. 21

○「e ラーニングと日本語の教育」， 秋山英治・仲道雅輝， 大学 e ラーニング協議会合同フォーラム 2013（佐賀大学）発表論文集， pp. 15-18， 2014. 3. 7

○「大学での e-Learning 普及推進の取り組みによる効果」， 仲道雅輝・根本淳子・鈴木克明， 日本教育工学会第 30 回全国大会（岐阜大学）発表論文集， pp. 611-612， 2014. 9. 20

○「教職協働を軸とした教育デザイン室の設置と運営」， 仲道雅輝・都築和宏・瀧本笑子， 大学行政管理学会大 18 回定期総会・研修集会（東北学院大学）発表論文集， pp. 129-130， 2014. 9. 7

○「SDC 養成講座～その実践と検証～」， 清水栄子・仲道雅輝・吉田一恵・秦敬治・米澤慎二， 大学行政管理学会大 18 回定期総会・研修集会（東北学院大学）発表論文集， pp. 53-54， 2014. 9. 7

○「学生の解答意欲を維持するプレイスメントテスト改善の試み」， 仲道雅輝・都築和宏・三神早耶・平田浩一・藤岡克則・秋山英治， 庭崎隆・山崎哲司・田中寿郎， 日本リメディアル教育学会全国大会（東京電機大学）発表論文集， pp. 138-139， 2014. 8. 21

○「初年次教育におけるブレンド型授業の実践とその成果～学生の属性に注目して～」， 秋山英治・仲道雅輝， 日本リメディアル教育学会全国大会（東京電機大学）発表論文集， pp. 118-119， 2014. 8. 22

○「ブレンディッドラーニングによる日本語リテラシー教育の展開」， 秋山英治・仲道雅輝， 大学教育学会第 36 回全国大会（名古屋大学）発表論文集， pp. 208-209， 2014. 6. 1

○「SD の実践的指導者（SDC）養成プログラムの開発～大学教職員能力開発拠点の取り組みから～」， 阿部光伸・仲道雅輝， 大学教育学会第 36 回全国大会（名古屋大学）発表論文集， pp. 146-147， 2014. 6. 1

○「学生リーダーシップに関する評価指標策定に関する考察」， 秦敬治・鈴木理絵・泉谷道子・津曲陽子・林真輝・

2. 教育研究実績

- 山内一祥・岸岡洋介・仲道雅輝・山崎その，大学教育学会第35回全国大会講演論文集，pp.282-283,2013.
- 「学生リーダーシップ養成における学びのサイクルに関する考察」，泉谷道子・山内一祥・阿部光伸・林真輝・鈴木理絵・仲道雅輝・津曲陽子・岸岡洋介・秦敬治，大学教育学会第35回全国大会講演論文集，pp.284-285,2013.
- 「プレイスメントテスト実施方法に関する一考察」，仲道雅輝・瀧本笑子・平田浩一・藤岡克則・秋山英治・庭崎隆・山崎哲司・田中寿郎，日本リメディアル教育学会第9回全国大会発表予稿集，pp.6-7,2013.
- 「教職員能力開発拠点の取組 - SD 講師・SD コーディネーター (SDC) の養成 (事例報告) -」米澤慎二・仲道雅輝・清水栄子，大学行政管理学会第17回定期総会・研究集会・資料集，pp.9-50,2013.
- 「大学間連携 SD を活用した次世代リーダー養成システム～SP0D - SD の事例から～」，秦敬治・阿部光伸・大竹奈津子・仲道雅輝・米澤慎二・石原卓也，大学行政管理学会第17回定期総会・研究集会・資料集，pp.89-90,2013.
- 「授業設計および教材作成支援による大学での e-learning 普及推進の取り組み」，仲道雅輝・鈴木克明，日本教育工学会第29回全国大会講演論文集，pp.805-806. P2a-1-404-07,2013.
- 「eラーニングと日本語の教育」，秋山英治，仲道雅輝，大学eラーニング協議会合同フォーラム予稿集，pp.15-18,2013.
- 「Promotion of University-Wide e-learning as Part of Faculty Development Activities」，Masaki Nakamichi. 熊本大学国際奨学事業報告書，pp.159-160,2013.
- 「大学教育の未来を支える e ラーニングの可能性／愛媛大学の e ラーニング推進の取組～教育デザイン室の設置～」仲道雅輝. [シンポジウム]，国立大学改革強化推進事業第1回シンポジウム，四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業，愛媛大学，2013.

佐々木 隆志

原著論文

- Lines of Comments as a Noteworthy Metric for Analyzing Fault-Proneness in Methods, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, IEICE Transactions on Information and Systems, Vol. E98-D, No.12, pp.2218-2228, 2015.
- 変数名とスコープの長さ及びコメントに着目したフォールト潜在性に関する定量的調査，阿萬裕久・天寄聡介・佐々木隆志・川原稔，ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム 2015 論文集，pp.69-76, 2015.
- テストケースのクラスタリングと 0-1 計画モデルを組み合わせた回帰テストの効率化，阿萬裕久・佐々木愛美・中野隆司・小笠原秀人・佐々木隆志・川原稔，コンピュータソフトウェア，Vol.32, No.3, pp.111-125, 2015.
- 大規模 OSS 開発における不具合修正時間の短縮化を目的としたバグトリアージ手法，柏祐太郎・大平雅雄・阿萬裕久・亀井靖高，情報処理学会論文誌，Vol.56, No.2, pp.669-681, 2015.
- オープンソース開発におけるコードクローン含有率の収束傾向に関する調査，本田暁・阿萬裕久・佐々木隆志・川原稔，電子情報通信学会論文誌 D, Vol. J97-D, No.7. pp.1213-1215, 2014.

紀要・抄録・報告

- オープンソース開発におけるコーディング規約違反の発生と解消の動向に関する調査，織田泰輔・阿萬裕久・佐々木隆志・川原稔，ソフトウェア信頼性研究会 第10回ワークショップ論文集，CD-ROM, 2014.
- オープンソース開発でのコード修正におけるコーディング規約違反の変化に関する調査，織田泰輔・阿萬裕久・佐々木隆志・川原稔，情報処理学会ソフトウェア工学研究報告，vol.2014-SE-186, no.3, pp.1-8, 2014.
- みんなでおでんきPJ ～スマートメータシステムの実装～，二宮政浩・鈴木才太・佐々木隆志・都築伸二・鈴木信・兼築史季・早田洋一・山田芳郎，情報処理学会研究報告 IPSJ SIG Technical Report, Vol.2013-IS-123 No.3, pp.1-8, 2013.

2. 教育研究実績

○みんなでおでんき PJ ～ソーシャルコンセントの実装～, 松重雄大・鈴木才太・佐々木隆志・都築伸二・鈴木信・兼築史季・早田洋一・山田芳郎, 情報処理学会研究報告 IPSJ SIG Technical Report, Vol.2013-IS-123, No.2, pp.1-6, 2013.

国際学会発表論文

○Empirical Analysis of Change-Prone Methods Having Local Variables with Long Names and Comments, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. 9th ACM/IEEE International Symposium on Empirical Software Engineering and Measurement (ESEM2015), pp.50-53, 2015.

○Predicting Fault-Prone Methods Focusing on the Combination of Inner Comments and Documentation Comments, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. Work in Progress Session held in connection with SEAA2015 and DSS 2015, pp.3-4, 2015.

○Empirical Analysis of Fault-proneness in Methods by Focusing on their Comment Lines, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. 21st Asia-Pacific Software Engineering Conference (APSEC2014), Vol.2, pp.51-56, 2014.

○Empirical analysis of comments and fault-proneness in methods: can comments point to faulty methods?, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. 8th ACM/IEEE International Symposium on Empirical Software Engineering and Measurement (ESEM2014), pp.63, 2014.

○Multistage Growth Model for Code Change Events in Open Source Software Development: An Example using Development of Nagios, Hirohisa Aman・Akiko Yamashita・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. 2014 40th Euromicro Conference on Software Engineering and Advanced Applications (SEAA2014), pp.207-212, 2014.

2. 教育研究実績

(2) 学会発表等

川原 稔

- OSS 開発における開発者の貢献度エントロピーとその後の品質との関係について, 山内一輝・阿萬裕久・川原稔, 第 24 回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ, 2017.
- ソースファイルに対する保守作業者の精通度評価について -トピックモデルを用いた評価法の検討-, 矢野博暉・阿萬裕久・川原稔, 第 24 回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ, 2017.
- A Study of Fault-Prone Method Prediction with Distortions between Method' s Name and its Implementation, Sho Suzuki・Hirohisa Aman・Minoru Kawahara, Poster Session at IWESEP2017, 早稲田大学, 2017.

阿萬 裕久

- OSS 開発における開発者の貢献度エントロピーとその後の品質との関係について, 山内一輝・阿萬裕久・川原稔, 第 24 回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ, 2017.
- ソースファイルに対する保守作業者の精通度評価について -トピックモデルを用いた評価法の検討-, 矢野博暉・阿萬裕久・川原稔, 第 24 回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ, 2017.
- A Study of Fault-Prone Method Prediction with Distortions between Method' s Name and its Implementation, Sho Suzuki・Hirohisa Aman・Minoru Kawahara, Poster Session at IWESEP2017, 早稲田大学, 2017.

仲道 雅輝

- 『学生への「学びのチェックシート」導入とその活用』加藤竜哉, 中嶋輝明, 望月雅光, 山下由美子, 湯川治敏, 尼崎光洋, 仲道雅輝, 日永龍彦, 山川広人, 日本リメディアル教育学会全国大会発表予稿集(日本文理大学), pp.90-91. 2017.8.21
- 「情報教育における高大接続の試み」秋山英治, 仲道雅輝, 都築和宏, 光宗宏司, 三好徹明, 日本リメディアル教育学会全国大会発表予稿集(日本文理大学), pp.72-73. 2017.8.21
- 「ルーブリック評価結果を利用した S-P 表分析の検討」久保田真一郎, 松葉龍一, 平岡齊士, 宮崎誠, 仲道雅輝, 日本教育工学会全国大会発表予稿集(島根大学), pp.459-460. 2017.9.16-18
- 『大学における e-learning 普及推進策の「イノベーション決定過程の段階モデル」による一考察』仲道雅輝, 根本淳子, 喜多敏博, 中野裕司, 鈴木克明, 日本教育工学会全国大会発表予稿集(島根大学), pp.409-410. 2017.9.16-18
- 「e ラーニングを活用した日本語・英語共同学習教材の有効性について」秋山英治, 仲道雅輝, 初年次教育学会第 10 回大会発表予稿集(中部大学), pp.138-139. 2017.9.7
- 「教務システムと Moodle とのデータ連携による LMS 活用科目および活用教員の増加」仲道雅輝, 増田隆司, 大学 e ラーニング協議会/日本リメディアル教育学会合同フォーラム 2017 発表予稿集(岩手県立大学), pp.12-15. 2018.2.28
- 「日本語文章作成支援ツールとしての話しことばチェッカー開発に向けて」山下由美子, 加藤竜哉, 湯川治敏, 小松川浩, 仲道雅輝, 秋山英治, 山川広人, 大学 e ラーニング協議会/日本リメディアル教育学会合同フォーラム 2017 発表予稿集(岩手県立大学), pp.70-73. 2018.3.1
- 「日本人大学生における話し言葉の認識について」秋山英治, 山下由美子, 湯川治敏, 小松川浩, 加藤竜哉, 仲道雅輝, 山川広人, 大学 e ラーニング協議会/日本リメディアル教育学会合同フォーラム 2017 発表予稿集(岩手県立大学), pp.78-82. 2018.3.1
- 「ICT を活用した授業における再履修者の取組について」秋山英治, 仲道雅輝, 都築和宏, 彦田順也, 八木昌生, 谷口浩一, 松本浩司, 光宗宏司, 三好徹明, 上床孝樹第 24 回大学教育研究フォーラム発表(京都大学), 2018.3.20

3. 教育活動及び教育支援

(1) 教育活動

【講義】

中川 祐治

1) 講義 (情報リテラシー入門)

2017年度 Q1, 情報リテラシー入門 I, 135名, 共通基礎教育科目, 理学部

2017年度 Q2, 情報リテラシー入門 II, 243名, 共通基礎教育科目, 理学部

2) 講義 (情報リテラシー入門以外)

2017年度前期, 環境ESD指導者養成講座 II, 17名, 共通発展科目, 全学部

2017年度後期, 数学セミナー II, 2名, 専門教育科目, 理学部

2017年度後期, 情報数理学 II, 18名, 専門教育科目, 理学部

2017年度後期, 環境ESD指導者養成講座 I, 22名, 共通発展科目, 全学部

2017年度後期, 応用数学概論, 9名, 専門教育科目, 修士

野口 一人

1) 講義 (情報リテラシー入門)

2017年度 Q1, 情報リテラシー入門 I, 中級, 140名, 共通基礎教育科目, 農学部

2017年度 Q1, 情報リテラシー入門 I, 初級, 48名, 共通基礎教育科目, 工学部

2017年度 Q2, 情報リテラシー入門 II, 183名, 共通基礎教育科目, 農学部

2) 講義 (情報リテラシー入門以外)

2017年度前期, 情報ネットワーク, 116名, 専門教育科目, 工学部

2017年度前期, 情報ネットワーク, 5名, 専門教育科目, 教育学部

2017年度 Q2, ネットワークシステム特論 I, 3名, ICTスペシャリスト育成コース

2017年度 Q3, ネットワークシステム特論 II, 3名, ICTスペシャリスト育成コース

2017年度 Q1, 身体運動学, 24名, 社会共創学部

2017年度 Q1, 新入生セミナー, 24名, 社会共創学部

2017年度後期, フィールド基礎実習, 24名, 社会共創学部

2017年度後期, プロジェクト基礎演習, 3名, 社会共創学部

川原 稔

2) 講義 (情報リテラシー入門以外)

2017年度後期, 情報基盤システム特論, 13名, 専門教育科目, 理工学研究科修士

阿萬 裕久

1) 講義 (情報リテラシー入門)

2017年度 Q1, 情報リテラシー入門 I, 177名, 共通基礎教育科目, 工学部

2017年度 Q2, 情報リテラシー入門 II, 276名, 共通基礎教育科目, 工学部

2) 講義 (情報リテラシー入門以外)

2017年度前期, ソフトウェア工学, 90名, 専門教育科目, 工学部

3. 教育活動及び教育支援

2017年度後期, 情報基盤システム特論, 13名, 専門教育科目, 理工学研究科修士

2017年度後期, プログラミング言語 I, 90名, 専門教育科目, 工学部

2017年度後期, プログラミング言語 I 演習, 90名, 専門教育科目, 工学部

仲道 雅輝

2) 講義 (情報リテラシー入門以外)

2017年度前期, 新入生セミナー, 120名, 初年次科目, 共通教育 (法文学部・夜間主)

2017年度前期, 新入生セミナー, 300名, 初年次科目, 共通教育 (法文学部・昼間主)

2017年度前期, 新入生セミナー, 160名, 初年次科目, 共通教育 (教育学部)

2017年度前期集中, 愛媛大学リーダーズ・スクール, 20名, 発展科目, 共通教育

2017年度後期集中, 愛媛大学ファシリテーションとリーダーシップ, 20名, 発展科目, 共通教育

2017年度第3Q, 倫理と思想を考える (ライフマネジメントとセルフリーダーシップ), 50名, 主題探求科目, 共通教育

2017年度第4Q, 倫理と思想を考える (ライフマネジメントとセルフリーダーシップ), 50名, 主題探求科目, 共通教育

2017年度集中, グローバル・リーダーシップ I, 共通教育 (全学部対象)

2017年度集中, グローバル・リーダーシップ II, 共通教育 (全学部対象)

佐々木 隆志

1) 講義 (情報リテラシー入門)

2017年度 Q1, 情報リテラシー入門 I, 40名, 共通基礎教育科目, 法文学部

2017年度 Q2, 情報リテラシー入門 II, 90名, 共通基礎教育科目, 法文学部

【論文指導】

中川 祐治

2017年度 卒業論文指導 学生数 4名

野口 一人

2017年度 卒業論文指導 学生数 2名

川原 稔

2017年度 卒業論文指導 学生数 3名

阿萬 裕久

2017年度 卒業論文指導 学生数 4名

3. 教育活動及び教育支援

【論文審査】

中川 祐治

2017年度 修士論文審査数（副主査） 2名

野口 一人

2017年度 修士論文審査数（副主査） 2名

2017年度 修士論文審査数（主査） 1名

川原 稔

2017年度 修士論文審査数（主査） 3名

2017年度 修士論文審査数（副主査） 2名

阿萬 裕久

2017年度 修士論文審査数（主査） 2名

2017年度 修士論文審査数（副主査） 3名

3. 教育活動及び教育支援

(2) 教育支援

【授業改善】

仲道 雅輝

○教育デザイン室の設置による授業設計支援

愛媛大学における e-learning を活用した授業改善を効果的・効率的に実現する方策の要として「教育デザイン室」(インストラクショナル・デザイン・オフィス)を設置し、ICT を活用した授業設計を支援する体制を整備・拡充を行い、安定的な運用を行っている。

教育デザイン室は、科目担当者の個別の授業改善を支援するほか、学部の教育改革に伴うカリキュラム改善に関わる支援など、ICT を活用した教育方法の提案を行っている。各授業では、科目担当教員は、日々の授業や業務の合間の時間を活用して授業設計の改善に取り組むことができるよう、専属の担当者がインストラクショナル・デザイン(教育設計)手法を用いた個別的支援を行っている。また、授業設計やカリキュラム設計、フィールドワークと対面授業の効果的な授業設計、e-learning と対面授業の効果的な授業設計等についても支援している。

○授業コンサルテーション, 2017年 3件

○カリキュラムコンサルテーション, 2017年 1件

○授業参観対応, 2017年 1件

○FD 研修会講師

- ・「学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計－課題分析図の活用」(学内 1 回, 学外 1 回) 愛媛大学 2017 年 5 月
- ・「効果的な e ラーニングの活用方法」, (学内 1 回) 教育・学生支援機構, 2017 年 5 月
- ・「アクティブラーニングのための授業設計ワークショップ」学外 4 回, 創価大学, 2017 年 9 月 2 回, 2018 年 3 月 2 回
- ・「授業デザインワークショップ (2 回)」, 教育・学生支援機構, 2017 年 7 月, 9 月
- ・「e-learning 入門～Moodle ソフトを使ってきめ細やかな学習支援を実現しよう～」, 教育・学生支援機構, 2017 年 9 月
- ・「三つの方針と評価と改善」桜の聖母短期大学, 2017 年 9 月
- ・「学習者の学習意欲を高めるためのインストラクショナル・デザイン (ID) 入門～ARCS 動機付けモデルの活用～ (学内 1 回) (学外 1 回)」, SPOD, 愛媛大学 2017 年 9 月, 高知県立大学 2017 年 10 月
- ・「学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法」(学内 1 回), 教育・学生支援機構, 2017 年 12 月
- ・「インストラクショナル・デザインを活用した看護技術教育の実践と発展」愛媛県看護教員継続研修, 愛媛県立医療技術大学, 愛媛県保健福祉部社会福祉医療局医療対策課, 2017 年 12 月
- ・「学生の学習意欲を高める授業設計－シラバスと授業構成の見直し－」千歳科学技術大学, 2018 年 3 月

3. 教育活動及び教育支援

【サークル等活動指導】

中川 祐治

○キリスト者学生会（KKG）顧問

仲道 雅輝

○SCV メディアサポーターズ映像部顧問

4. 研究活動

(1) 研究成果

中川 祐治

○機械学習による受講者観察システム高速化の検討

学習者が文章を読む際に発生する眼球運動の一種であるSaccade（一秒間に3回、一回あたり約30ミリ秒）に着目し、各種実験を行ったところ、学習に集中している時はSaccadeが観測され、集中度が低下するとSaccadeが観測されないという事実を2003年に確認した。そこで、これまでに学習時の眼球運動を画像解析により取得し、Saccadeの有無により学習への集中度を測定する『受講者観察システム』の実用化研究を行ってきた。これまでに開発したシステムでは、大まかな目領域に対して全方向微分フィルタを用いて黒目中心座標の検出を行っていた。しかし、この手法は黒目の半径に合わせたフィルタを用いなければ十分な効果が得られないという欠点がある。受講者とカメラの距離が変動することに伴い黒目の半径も変動することから、その大きさを合わせるためにフィルタサイズの推定をしなければならず、計算量が大きくなる。そこで、システムを高速化するためには、黒目の半径に依存しない、中心座標検出方法が必要だと考えられる。そこで、ニューラルネットワークによる機械学習を用いて、大まかな目領域から直接、黒目中心座標を検出する方法を試みた。ニューラルネットワークとは生物の脳の神経回路の仕組みを模した数学モデルであり、特にそれらを多層にした多層ニューラルネットワーク（ディープラーニング）は様々な分野で大きな注目を浴びている。今回の試行ではニューラルネットワークの学習をあらかじめ行い、学習結果を用いて黒目中心座標検出の評価を行った。全体の流れは以下である。

- (1) データの作成
- (2) ニューラルネットワークの構築及び学習
- (3) 学習結果を用いて黒目中心座標検出と評価

このようにして、大まかな目領域から直接、黒目の中心座標検出が可能になった。

○婚活ビッグデータと松山市オープンデータの融合による合計特殊出生率向上のための調査研究

近年、日本全国で人口減少が問題となっている。そこで、松山市は平成28年1月に「松山創生人口100年ビジョン」及び「松山創生人口100年ビジョンさきがけ戦略」を策定した。また、これらを総合的、計画的に推進するため松山市人口減少対策推進条例を制定し「まつやま人口減少対策推進会議」を設立した。

その取り組みの中で、ビッグデータとオープンデータを結び付けて合計特殊出生率を向上させることを目的とした、愛媛大学、愛媛県法人会連合会、松山市の三者による「結婚支援ビッグデータ・オープンデータ活用研究会」が組織され、6回にわたる研究会（7月13日、8月22日、10月26日、12月21日、2月1日、2月12日）が実施された。一方、国勢調査から女性有配偶率のデータが得られるので、このデータの増加率が最も高い年齢、すなわち、最も多くの女性が婚姻している年齢（IPMR; Inflection Point of women Married Rate）を割り出し、合計特殊出生率の高い地域と低い地域との相関を調べることにした。比較する地域としては、県庁所在地とし上位10市、下位10市と松山市のIPMRを比較した。その結果、松山市を基準として各都市のIPMR以下の年齢における有配偶率の差分を求めたところ、上位10市では正の値が8市、下位10市では負の値が9市となり、IPMRを尺度として今後の議論が可能であることが示された。

4. 研究活動

野口 一人

○ 光デバイスに関する研究

強誘電体であるニオブ酸リチウム (LiNbO_3) は、優れた電気光学特性、音響光学特性、非線形光学特性を有しており、光通信システムにおける光変調器、TV や携帯電話における中間周波数 (IF) フィルタ、小型振動子、光ジャイロなど様々な分野で使用されている。光通信の分野では、光源である半導体レーザの後段に接続される外部光変調器として研究開発が進み、今日の大容量通信ネットワークを支えるキーデバイスの一つである。近年、スマートフォンなどの携帯情報端末の爆発的な普及と、高精細動画サービスの拡大により、通信設備の大容量化・低消費電力化を目指した研究開発が進められている。

現在、光変調器のさらなる高性能化を図るため、小型化が有望な材料を用いたシリコンフォトニクスと、低駆動電圧化が有望な電気光学 (EO) ポリマの研究が盛んに行われている。これらの材料系に対して、卒論指導を通じて有限要素法による解析プログラムの作成及びデバイスシミュレーションを進めている。

一例として、EO ポリマ-Si 導波路ハイブリッド導波路における、光強度電界分布の計算結果を図 1 に示す。図では一昨年度の成果であるスカラ波解析、昨年度の成果であるセミベクトル波解析、今年度の成果であるフルベクトル波解析の結果を示している。Si 導波路は屈折率が 3 以上であり、EO ポリマの屈折率 (1.7) と比べて屈折率差が大きい。その結果、図中で拡大して示しているように、コアとクラッドの境界で電界の乱れが発生していることをシミュレーションできた。さらに、今回、フルベクトル波解析の採用により、直交成分の解析も可能になった。

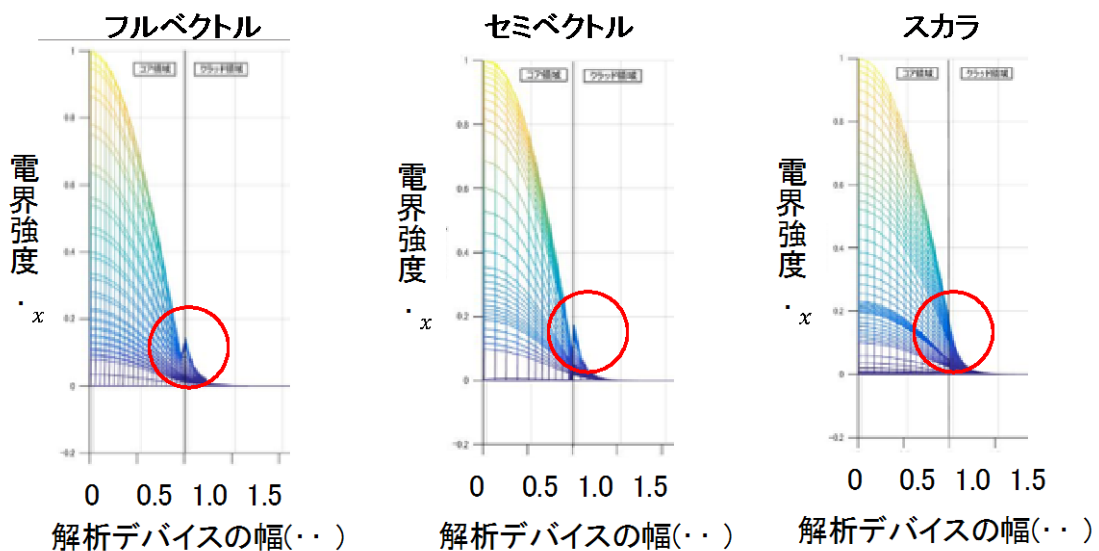


図 1. EO ポリマ-Si ハイブリッド光導波路における電界分布

4. 研究活動

川原 稔

○視線誘導型視野計測手法に関する研究

視野の把握は、緑内障や網膜変性症などの疾患を早期発見・早期対処するために重要な役割を果たす。現存する視野計測法では、視線を固視して計測を行う必要があり、被験者にとって負担が大きいものである。本研究では、視野計測を行うための視標を目で追って視線を自由に動かすことができる計測法を發明し、被験者が反応する時間計測に基づいて視野暗点を検出することができるようになった。本研究に基づいてヘッドマウントディスプレイに構築した計測システムを用いて、ながはま 0 次予防コホートにおいて 531 人に対する計測データを取得した。本發明は、特許 6230086 号「視野計測方法、視野計測装置及び視力検査視標」として知的財産権が認められた。さらに、本件は、国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) の支援を受けて、特許協力条約 (PCT: Patent Cooperation Treaty) に基づき国際出願番号 PCT/JP2016/072647「視野計測方法、視野計測装置及び視力検査視標」として国際出願を行っていたものを、米国、独国、中国に対して特許申請を行った。

阿萬 裕久

○データ解析に基づいたソフトウェア品質評価・予測に関する研究

ソフトウェアの品質はその開発に携わる技術者の経験や力量に依存しやすく、個体差が大きい。そのため個々の案件だけでなく、統計的なデータ解析の観点からソフトウェアの品質を評価・予測することが重要であり、90 年代後半からこのテーマに取り組んでいる。現在は特に、プログラマがプログラムの中に書き込むコメント文の品質に対する影響に着目しており、科学研究費補助金・基盤研究(C)の研究代表者として個人差の出やすい特徴の品質への影響について研究を行っている。あわせて、プログラムの書き方に関する規約違反を切り口とした研究も行っている。平成 29 年度はこのテーマでの成果発表を 9 件 (原著論文 3 件, 国際会議 5 件を含む) 行い、他大学の研究者からは良好な反応が得られている。

○効率的なソフトウェアレビュー及びテストの実践に関する研究

一般にソフトウェアの正しさは、その内容確認と動作確認によって保証される。前者はレビューと呼ばれ、多くの場合は複数の技術者がドキュメントやプログラムの内容を目視によって確認する作業となる。後者はテストと呼ばれ、実際にソフトウェアが正しく動作するかどうかを確認する作業となる。いずれも重要な作業であるが、工数 (人手と時間) を多く必要とするところが現場では大きな問題となっている。この問題を解決すべく、平成 22 年からレビュー及びテストの計画に数理計画モデルを応用する手法を提案し、その効果について研究を行っている。平成 24 年から 28 年度までは東芝とテストの効率化について共同研究を行った。平成 29 年度には研究成果を論文にまとめ国際会議に投稿して採録された。平成 30 年 4 月に発表予定である。

○オープンソース開発プロジェクトに関する研究

近年、Linux に代表されるようにオープンソースソフトウェアが広く使われるようになってきた。オープンソースソフトウェアはリポジトリと呼ばれるシステムを介してソースコードそのものがすべて公開されており、その追加や修正もリポジトリで容易に確認できる。しかしながら、単にリポジトリにアクセス

4. 研究活動

するだけでは、現時点での開発状況を把握したり、今後の開発の進展を予測したりするのは容易ではない。そこでリポジトリ上での開発データを様々な切り口から解析し、状況の把握と予測を行う研究を進めている。平成 29 年度には成果発表を 4 件（国際会議 1 件を含む）行った。

仲道 雅輝

○高等教育機関における全学的な e-learning 推進に関わる研究

本研究は、高等教育機関での e-learning の全学的普及に効果的な方策を見出し、今後の普及活動への示唆を得ることを目的としている。実践過程の仕掛けの紹介とともに、実践過程を振り返り、e-learning の全学的な普及に向けて大学全体を巻き込んでいくための方策について、教員アンケートや導入段階から普及・定着の過程をまとめ考察している。結果、教員の e-learning コンテンツ制作数の増加につながり、これらから ICT 活用による授業展開方法の周知等の e-learning 普及に対する促進効果が示唆された。そこで、本研究は、他大学においても有効な全学的な e-learning 普及推進モデルの構築を目指して、取り組み事例と普及に関わる調査・分析を重ね、具体的な e-learning 普及推進モデルの提案及び e-learning を取り入れた授業展開に関する報告をした。それらは論文誌に掲載されている（9 本：教育メディア学会、教育システム情報学会、日本教育工学会、愛媛大学大学教育実践ジャーナル）

研究報告としては、国内学会（日本教育工学会：2 本、初年次教育学会：1 本、大学 e ラーニング協議会合同フォーラム：1 本、日本リメディアル教育学会 5 本、大学教育研究フォーラム：1 本）で発表している。

全学的な e-learning 推進に関わる学内マネジメントの重要性を含め、普及要因を普遍化し、教員への半構造化インタビューを通して、普及方略の妥当性を検証した研究成果を、博士論文としてまとめた。

○FD・SD 活動の普及要因に関わる研究

アクティブラーニングを取り入れた授業設計のための教員研修の改善と評価に関する研究を進めている。具体的には、授業改善ワークショップを企画・実施し、参加者の授業シラバスをもとに授業改善の検討を行う実践中心のプログラムを実施している。実施後のアンケート結果や最終成果物から効果検証を行い、傾向や検証結果について発表を行った。（日本教育工学会：3 本）

スタッフディベロップメントの実践的研究として、SDC 養成プログラムの開発や実践結果からの検証結果について、研究発表を行っている。（大学行政管理学会：8 本）

○学生能力開発における成長過程に関わる研究

初年次教育や学生リーダーシップ教育に関わって、学習経験の質に関する研究を進めている。

学習経験の質に関する研究では、実践対象校で初年次教育科目として開講している新入生セミナーを通じて、学習者の学ぶ姿勢を育成しているかどうかの効果検証及び調査項目の提案を行っている。その基礎となる調査項目の着眼点をパリッシュの「学習経験の要因モデル」の学習経験のレベルを左右する要因から探っていく。具体的には、学習状況に関わる要因と学習者個人に関わる要因があり、これらの要因によって、学習経験の質が変化すると捉えている。その中で、「学習者個人に関わる 4 要因」を基盤に調査項目を立案・調査・実施した結果を報告している。平成 27 年度文部科学省・科学研究費助成事業・基盤研究 (C)

4. 研究活動

に採択され、「学習者要因に着目した学習経験自己評価表の開発と評価—初年次教育での学ぶ姿勢の育成」(研究代表者) 研究を進めている。

本研究は、パリッシュの「学習経験の要因モデル」にある「学習者要因」に焦点をあて、その支援方略を明らかにし、「学習経験自己評価表」を用いることで、望ましい学習姿勢を身につけ、学習効果が向上することを目指す。また、教員が学習経験を高める授業改善に使える「授業改善ヒント集」も作成し、授業改善を支援することを目的としている。平成 28 年度は、「授業改善ヒント集」及び「学習経験自己評価表」の一次案をもとに、分析を加え発表を行った(初年次教育学会:1本, 日本教育工学会:1本)。さらに、授業実践で適用し、妥当な評価表となるよう分析を進め、データの追加と再分析の最終結果を発表した(日本教育工学会:1本)。

5. 業務関連

(1) 沿革

- 昭和 41 年 3 月 愛媛大学電子計算機室（学内共同利用施設）発足，HIPAC103（主記憶：4KW）導入
- 昭和 50 年 2 月 愛媛大学計算機室に名称変更
- 昭和 50 年 3 月 FACOM230-28（主記憶：96KB）を設置，九州大学大型計算機と専用回線で接続
- 昭和 57 年 7 月 情報処理センター発足
- 昭和 57 年 11 月 情報処理センター建物完成（835.3 平方メートル）
- 昭和 58 年 2 月 FACOM M180IIAD システム（主記憶：12MB）導入
- 昭和 58 年 3 月 九州大学大型計算機センターと大学間ネットワーク（N1）手順により接続
- 昭和 60 年 3 月 DDX 加入
- 昭和 61 年 11 月 FACOM M360AP（主記憶：24MB）に変更
- 昭和 62 年 4 月 FACOM M360AP システムに更新
- 平成 2 年 1 月 学術情報センターノード運用開始，DDX 解除
- 平成 2 年 10 月 JUNET 電子メールサービスの開始
- 平成 3 年 2 月 FACOM M770/6 システム（主記憶：64MB）導入
- 平成 4 年 2 月 JAIT に接続
- 平成 5 年 4 月 総合情報処理センター発足
- 平成 5 年 12 月 SINET ノード設置
- 平成 6 年 2 月 FACOM M1600/6 システム（主記憶:128MB）,CONVEX C3440CT システム導入
- 平成 6 年 3 月 学内ネットワーク（EUNET）の構築
- 平成 9 年 11 月 ATMネットワークシステムの構築
- 平成 10 年 2 月 S-7/7000U モデル 500, FACOM M1600/6 システム導入
- 平成 12 年 2 月 総合情報処理センター建物完成（1871 平方メートル）
- 平成 13 年 3 月 学内ギガネットワークシステムの構築
- 平成 14 年 2 月 PRIMPOWER 600, パソコンシステム導入
- 平成 15 年 4 月 総合情報メディアセンター発足
- 平成 15 年 9 月 総合情報メディアセンター・放送大学建物完成
- 平成 18 年 2 月 総合情報メディアセンター情報基盤システム導入
- 平成 19 年 6 月 SINET3 本格運用
- 平成 22 年 3 月 構内光ケーブル張替
- 平成 22 年 10 月 総合情報メディアセンター情報基盤システム導入
- 平成 23 年 3 月 SINET4 運用
- 平成 23 年 4 月 先端研究・学術推進機構総合情報メディアセンターに組織変更
- 平成 26 年 9 月 総合情報メディアセンター情報基盤システム導入
- 平成 28 年 2 月 SINET5 運用
- 平成 30 年 4 月 先端研究・学術推進機構総合情報メディアセンターの部門を改編

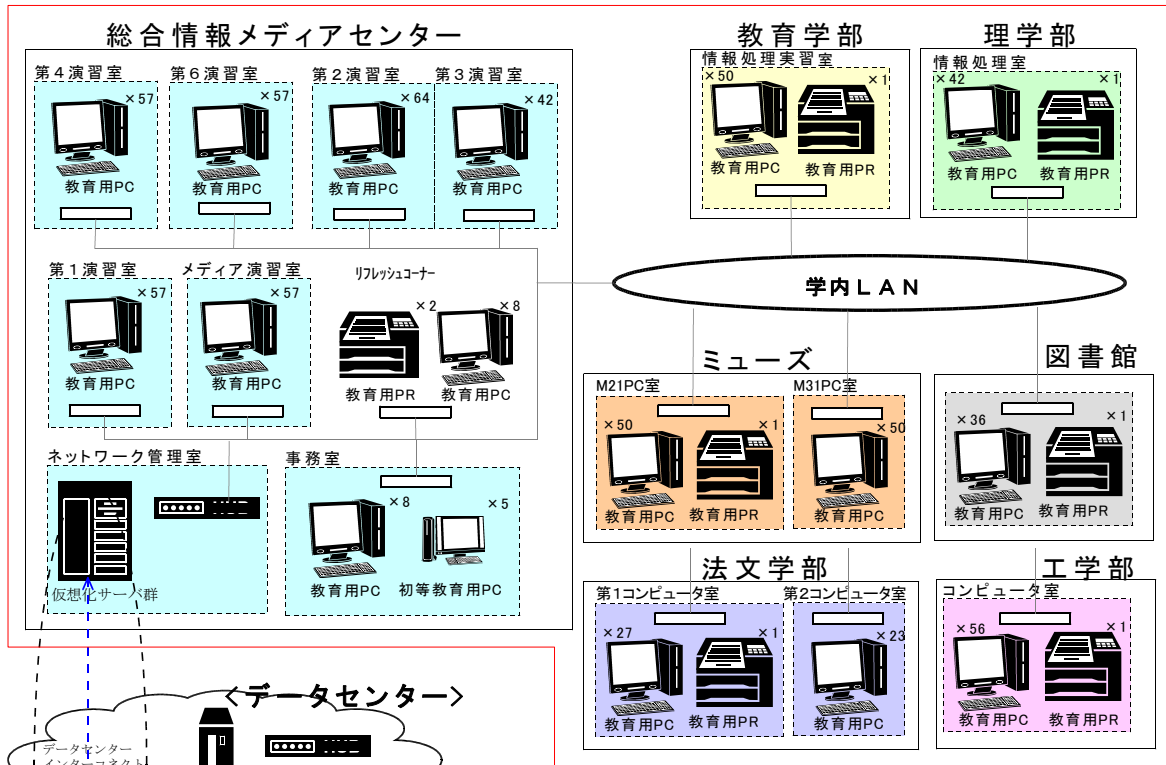
5. 業務関連

(2) 情報基盤システム

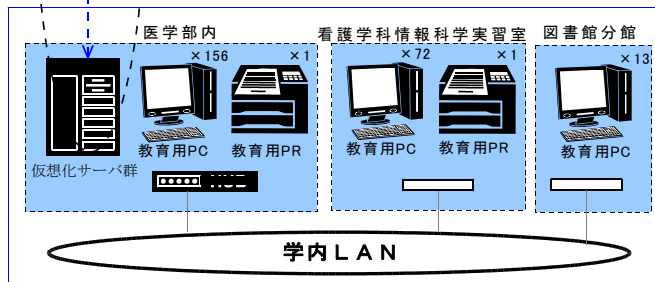
○システム構成概念

平成 29 年度のシステム概念は次のとおりです。

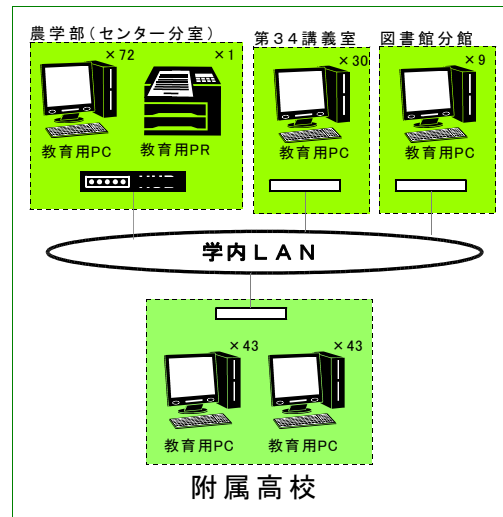
<城北地区>



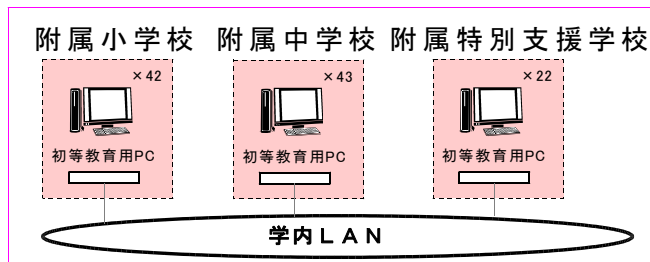
<重信地区>医学部



<樽味地区>農学部



<持田地区>



5. 業務関連

○ソフトウェア一覧

平成 29 年度の各演習室で使用可能なソフトウェアは次のとおりです。

■教育PC用イメージパターン

No	ソフトウェア名	ソフトウェア説明	区分	申請 部局	ソフトウェア ライセンス	イメージパターン						
						Windows10				Windows8.1		
						城北共通 (農学部を含む)	医学部① (総合教育課2F)	医学部② (それ以外)	附属高校	小学校	中学校	特別支援学校
1	7-Zip	ファイル圧縮ソフト	*			●	●	●	●	●	●	●
2	AdobeReaderDC	PDF閲覧用ソフト	*			●	●	●	●	●	●	●
3	Chrome	Webブラウザ	*			●	●	●	●	●	●	●
4	Cywin	Unix環境	*			●	●	●	●	●	●	●
5	Eclipse	統合開発環境	*			●	●	●	●	●	●	●
6	FireFox	Webブラウザ	*			●	●	●	●	●	●	●
7	Flash Player	ブラウザプラグイン	*			●	●	●	●	●	●	●
8	GIMP	ベクトルソフト	*			●	●	●	●	●	●	●
9	GoogleEarth Pro	バーチャル地球儀ソフト	*			●	●	●	●	●	●	●
10	JDK	Java開発ツール	*			●	●	●	●	●	●	●
11	Lhaplus	ファイル圧縮ソフト	*			●	●	●	●	●	●	●
12	Microsoft Office Professional 2016	ワープロソフト、表計算ソフト等	*		■	●	●	●	●	●	●	●
13	Microsoft Windows Visual Studio 2015	統合開発環境	*		■	●	●	●	●	●	●	●
14	Primo PDF	PDF 作成/変換ソフト	*			●	●	●	●	●	●	●
15	QuickTime	動画再生ソフト	*			-	-	-	-	-	-	-
16	RealPlayer	動画再生ソフト	*			●	●	●	●	●	●	●
17	一太郎ビューア	一太郎ビューアソフト	*			●	●	●	●	●	●	●
18	ザクエディタ	テキストエディタ	*			●	●	●	●	●	●	●
19	花子ビューア	花子ビューアソフト	*			●	●	●	●	●	●	●
20	Accelrys Draw	化学構造式作成ソフト		工		●	●	●	●	●	●	●
22	AutoCad2016	CADソフト		工		●	●	●	●	●	●	●
23	OBT	医学部試験実務ソフト		医	■	●	●	●	●	●	●	●
24	Chem Sketch	化学構造式描画ソフト		工		●	●	●	●	●	●	●
25	Gaussian	計算化学用ソフト		工	■	●	●	●	●	●	●	●
26	GaussView	グラフィカル・インターフェース		工	■	●	●	●	●	●	●	●
27	Inkscape	高機能ドローソフト		工		●	●	●	●	●	●	●
28	Jw cad	2次元汎用CADソフト		農		●	●	●	●	●	●	●
29	MANDARA	地理情報分析支援システム		教		●	●	●	●	●	●	●
30	NDPビューア	ビューソフト		医	■	●	●	●	●	●	●	●
31	QGIS	地理情報システムの閲覧、編集、分析		社		●	●	●	●	●	●	●
32	R Studio	統計解析言語R用の統合開発環境		法		●	●	●	●	●	●	●
33	SAS Analytics pro	統計解析ソフト		医	■	●	●	●	●	●	●	●
34	SolidWorks	3次元CAD設計ソフト		工	■	●	●	●	●	●	●	●
37	SPSS	統計解析ソフト		医	■	●	●	●	●	●	●	●
38	Tera Term	ターミナルエミュレータ		工		●	●	●	●	●	●	●
42	VirtualBox	仮想化PC作成・実行ソフト		他		●	●	●	●	●	●	●
43	VODBOX	Internet Explorer用アドオン		医		●	●	●	●	●	●	●
44	統計解析言語 R	統計解析ソフト		法		●	●	●	●	●	●	●
45	LIFE with PhotoCinema3	フォトムービー作成ソフト		他	■	●	●	●	●	●	●	●
46	SCRATCH	プログラミング言語		他		●	●	●	●	●	●	●
47	XmediaRecode	動画一括変換ソフト		他		●	●	●	●	●	●	●
48	がく(れい)ランドセル小学1~6年	統合学習ソフト		他	■	●	●	●	●	●	●	●
49	ジャストスマイル5	学習・授業支援ソフト		他	■	●	●	●	●	●	●	●
50	一太郎	日本語ワープロソフト		他	■	●	●	●	●	●	●	●
51	バーコードフォント(CODE39、CODE128)	フォント		他		●	●	●	●	●	●	●
52	SKYMENU	授業支援・学習活動支援ソフトウェア		他	■	●	●	●	●	●	●	●

ー注意事項等ー

QuickTimeには、脆弱性があるため、脆弱性の対策が行われるまで、利用を停止しております。

SolidWorksについて、農学部には設置している端末へインストールしておりますが、運用の都合上、農学部の端末では、使用できない設定となっております。

「区分」 *・・・仕様書にてインストールしているソフトウェア 空欄・・・申請に基づきインストールしているソフトウェア

「申請部局」 法・・・法学部 教・・・教育学部 社・・・社会共創学部 理・・・理学部 医・・・医学部 工・・・工学部 農・・・農学部 他・・・その他(左記部局以外)

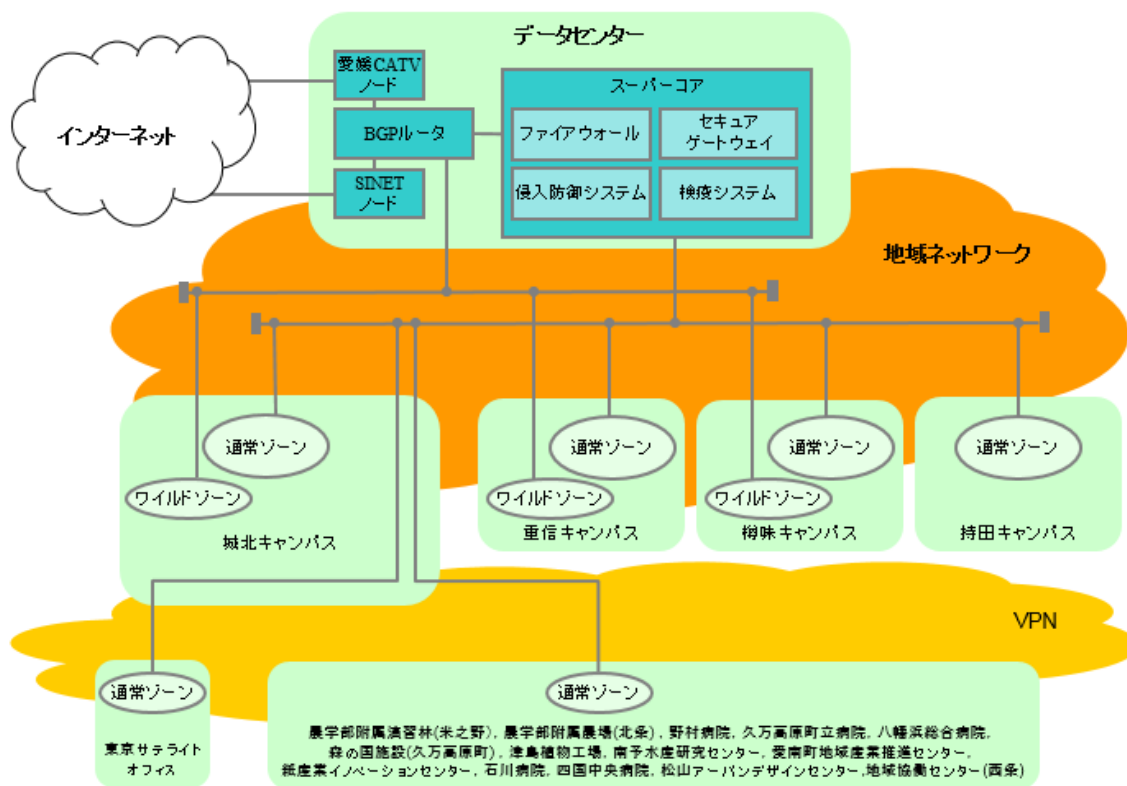
「ライセンス」 ■・・・有償ライセンスソフトウェア 空欄・・・無償ライセンスソフトウェア

5. 業務関連

○ネットワーク概念

平成 29 年度の情報基盤システムネットワークは次のとおりです。

ネットワークシステム概念図



※城北・重信・樽味・持田キャンパス通常ゾーンでは無線ネットワークも提供

図 ネットワーク概念

(3) 事業実績

○セキュリティ関連

- ・情報セキュリティ教育及び確認テスト(7月)

教職員の情報セキュリティに関する意識向上のための情報セキュリティ教育及び確認テストを、eラーニングにより実施した。

- ・セキュリティ脆弱性検査実施(11月から随時)

学内の申請サーバについてセキュリティ対策脆弱性検査を実施し、脆弱性が発見された利用者には通知を行い、対策を依頼した。

○ネットワーク関連

- ・紙産業イノベーションセンターの回線増設(3月)

(4) 利用状況

平成 29 年度のセンター利用状況は次のとおりです。

5. 業務関連

○情報基盤システム

センターメール及びLMS利用アカウントは、全学アカウントを持つ教職員及び学生以外の方が対象です。

申請種別	登録数
センターメール	28 件
セキュアゲートウェイ	352 件
ホスティング (OS)	41 件
ホスティング (Web)	77 件
LMS利用アカウント	15 件
LMS利用 (コース登録)	1,531 件

○夜間開放・休日開放

夜間開放は、毎週月～金の17:00～21:00、休日開放(2007年9月から実施)は、10:00～17:00に第1演習室を開放しています。(ただし、夏季休暇及び冬季休暇中は除く)

	夜間開放利用者数	休日開放利用者数
2017年 4月	239人	80人
2017年 5月	727人	190人
2017年 6月	379人	99人
2017年 7月	506人	347人
2017年 8月	91人	28人
2017年 9月	41人	24人
2017年10月	302人	71人
2017年11月	523人	127人
2017年12月	362人	48人
2018年 1月	577人	108人
2018年 2月	345人	76人
2018年 3月	---	---

○メディアホール

年月	利用件数	年月	利用件数
2017年 4月	15	2017年10月	11
2017年 5月	7	2017年11月	18
2017年 6月	10	2017年12月	13
2017年 7月	13	2018年 1月	14
2017年 8月	8	2018年 2月	13
2017年 9月	12	2018年 3月	17

5. 業務関連

○演習室

演習室使用予定表 平成29年度・前学期第1クォータ

曜日	演習室	8:30~10:00 1 時 限		10:20~11:50 2 時 限	12:40~14:10 3 時 限	14:30~16:00 4 時 限	16:20~17:50 5 時 限	18:00~19:30 6 時 限	19:40~21:10 7 時 限
		月	第6演習室 (4階)<56席>	情報リテラシー入門 I (理学部) 谷 弘幸			設計製図 (工・機械工学 3年) 松下 正史		
	第4演習室 (4階)<56席>	情報リテラシー入門 I (理学部) 中川 祐治			情報リテラシー入門 I (農学部) 野口 一人	化学入門 (教育, 理, SSC, 農, 看護) 古賀 理和			
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>		環境学入門 (理, 工 2年) 古賀 理和						
	第1演習室 (2階)<56席>	情報リテラシー入門 I (理学部) 河村 泰之	統計学 (法・2年) 佐藤 智秋	情報リテラシー入門 I (農学部) 堤 三佳	松山直スパーグローバル ハイスクール(SGH)卒業 井門 俊	夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>			
	メディア演習室 (2階北)<56席>	橋梁工学演習 (工・環境建設工学 3年) 中畑 和之		情報リテラシー入門 I (農学部) 野口 一人	製図基礎実習 (工学部2年) 朱 農				
火	第6演習室 (4階)<56席>	5/2	伝熱工学特論 (工 機械工学 1年) 向笠 忍		情報リテラシー入門 I (工学部)	心理学実験演習 (法文 2年) 十河 宏行	工学実践英語 (工 機械工学 2年) 有光 隆		
	第4演習室 (4階)<56席>				工(機械・電電・情報)	情報リテラシー入門 I (教育) 平田 浩一	フランス語 I (法文) 柳 光子		
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>				甲斐 博	情報リテラシー入門 I (教育) 宇戸 寿幸	工学実践英語 (工 機械工学 2年) 柴田 諭		
	第1演習室 (2階)<56席>						夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>				情報リテラシー入門 I (工学部)				
水	第6演習室 (4階)<56席>		人文学情報処理演習 (法・人文 2~4年) 大谷 尚之	6/7			製図基礎実習 (工学部2年) 朱 農		
	第4演習室 (4階)<56席>								
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>								
	第1演習室 (2階)<56席>						夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>					5/11,6/1			
木	第6演習室 (4階)<56席>				応用化学実験 I (工学部・2年生) 林 実	情報リテラシー入門 I (法学部)			
	第4演習室 (4階)<56席>				情報リテラシー入門 I (医学部) 岡本 好弘	情報リテラシー入門 I (法学部) 木下 浩二			
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>	生活科学入門 (社, 法, 教, 農) 古賀 理和							
	第1演習室 (2階)<56席>		統計学 (法・2年) 佐藤 智秋	情報リテラシー入門 I (医学部) 岡野 大	情報リテラシー入門 I (法学部) 黒田 久泰	夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>			
	メディア演習室 (2階北)<56席>				情報リテラシー入門 I (法学部) 大塚 寛				
金	第6演習室 (4階)<56席>				情報リテラシー入門 I (工学部)	統計学特論 (法・修士 1年) 佐藤 智秋			
	第4演習室 (4階)<56席>		情報リテラシー入門 I (社会共創学部)	阿高 裕久	高圧ガス利用者 保安教育講習会	6/9		情報リテラシー入門 I (法・夜間主) 佐々木 隆志	
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>						夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	第1演習室 (2階)<56席>	情報リテラシー入門 I (社会共創学部) 遠藤 慶一	情報リテラシー入門 I (工学部)	小林 真也					
	メディア演習室 (2階北)<56席>				情報リテラシー入門 I (工学部)	一色 正晴		情報リテラシー入門 I (法・夜間主) 二神 透	

* 使用予定表に授業科目の記載がない場合、また記載があっても授業等で使用していない場合は、自習室として利用できます。

* 説明会・講習会、補講、集中講義等の一時使用については記載していません。

曜日	演習室	13:30~15:00 1 時 限		15:10~16:40 2 時 限	16:50~18:20 3 時 限	
		土	第6演習室 (4階)<56席>			
	第4演習室 (4階)<56席>				5/27,6/3 (8:30~16:00)	
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>	プログラミング演習 I (工・電気電子工学科 2年) 仲村 泰明				
	第1演習室 (2階)<56席>	休 日 開 放 (10:00 ~ 17:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>				
	メディア演習室 (2階北)<56席>					

5. 業務関連

演習室使用予定表 平成29年度・前学期第2クォータ

曜日	時限	8:30~10:00		10:20~11:50		12:40~14:10		14:30~16:00		16:20~17:50		18:00~19:30		19:40~21:10	
		1時限		2時限		3時限		4時限		5時限		6時限		7時限	
月	第6演習室 (4階)<56席>	情報リテラシー入門II (理学部) 中川 祐治				設計製図 (工・機械工学 3年) 松下 正史									
	第4演習室 (4階)<56席>														
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>														
	第1演習室 (2階)<56席>														
	メディア演習室 (2階北)<56席>														
火	第6演習室 (4階)<56席>	情報リテラシー入門II (農学部) 野口 一人			化学入門 (教育, 理, SSC, 農, 看護) 古賀 理和										
	第4演習室 (4階)<56席>														
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>														
	第1演習室 (2階)<56席>														
	メディア演習室 (2階北)<56席>														
水	第6演習室 (4階)<56席>	情報リテラシー入門II (工・機械・電電・情報) 甲斐 博			心理学実験演習 (法文 2年) 十河 宏行										
	第4演習室 (4階)<56席>														
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>														
	第1演習室 (2階)<56席>														
	メディア演習室 (2階北)<56席>														
木	第6演習室 (4階)<56席>	生活科学入門 (社, 法, 教, 農) 古賀 理和			応用化学実験I (工学部・2年生) 林 実										
	第4演習室 (4階)<56席>														
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>														
	第1演習室 (2階)<56席>														
	メディア演習室 (2階北)<56席>														
金	第6演習室 (4階)<56席>	情報リテラシー入門II (社会共創学部) 二宮 崇			統計学特論 (法・修士1年) 佐藤 智秋										
	第4演習室 (4階)<56席>														
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>														
	第1演習室 (2階)<56席>														
	メディア演習室 (2階北)<56席>														

* 使用予定表に授業科目の記載がない場合、また記載があっても授業等で使用していただければ、自習室として利用できます。
 * 説明会・講習会、補講、集中講義等の一時使用については記載していません。

曜日	時限	13:30~15:00		15:10~16:40		16:50~18:20	
		1時限		2時限		3時限	
土	第6演習室 (4階)<55席>						
	第4演習室 (4階)<56席>						
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>						
	第1演習室 (2階)<56席>						
	メディア演習室 (2階北)<56席>						

5. 業務関連

演習室使用予定表 平成29年度・後学期第3クォータ

日曜	時限	演習室					11/6,13,20	19:40~21:10
		8:30~10:00 1時限	10:20~11:50 2時限	12:40~14:10 3時限	14:30~16:00 4時限	16:20~17:50 5時限		
月	第6演習室 (4階)<56席>			環境建設工学実験II (工・環境 3年) 全 邦 釘	2017SGH 我々と環境問題 李 賢 映	SPIガイダンス	11/20	
	第4演習室 (4階)<56席>			コンピュータ基礎 (理学部・数学科 2年) 大塚 寛	松山東スーパーグローバル ハイスクール(SGH)事業 井門 俊			
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>				生活科学入門 (理, 医, 農, SSC 1年) 古賀 理和			
	第1演習室 (2階)<56席>					夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>							
	第6演習室 (4階)<56席>				心理学実験演習 (法文 2年) 十河 宏行	SPIガイダンス	11/21	
火	第4演習室 (4階)<56席>				SPIガイダンス	基礎フランス語3 (法文) 柳 光子		
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>				プログラミング言語 (工・機械) 柴田 諭	11/21		
	第1演習室 (2階)<56席>					夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>							
	第6演習室 (4階)<56席>		システムデザイン (工学部 3年) 甲斐 博	応用化学実験II (工・応用化学 2年) 伊藤 大道		11/1		
	第4演習室 (4階)<56席>	11月から使用	コンピュータ基礎 (理学部・数学科 2年) 大塚 寛	コンピュータ基礎 (理学部・数学科 2年) 大塚 寛				
水	第2・3演習室 (3階)<63・42席>			CAD実習 (工学部機械 2年) 朱 震				
	第1演習室 (2階)<56席>				夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>			
	メディア演習室 (2階北)<56席>							
	第6演習室 (4階)<56席>	情報通信システム特論 (博士前期課程 1年) 都築 伸二		応用化学実験II (工・応用化学 2年) 林 実		10/26		
	第4演習室 (4階)<56席>				松山東スーパーグローバル ハイスクール(SGH)事業 井門 俊	法情報論 (法・2~4年) 上山 友一		
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>				基礎演習 (法・2年) 不破 茂	10/26		
木	第1演習室 (2階)<56席>					夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>							
	第6演習室 (4階)<56席>							
	第4演習室 (4階)<56席>							
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>			創造設計製作 (工 機械工学科) 堀 三佳				
	第1演習室 (2階)<56席>					夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
金	メディア演習室 (2階北)<56席>							

* 使用予定表に授業科目の記載がない場合、また記載があっても授業等で使用していない場合は、自習室として利用できます。

* 説明会・講習会、補講、集中講義等の一時使用については記載していません。

日曜	時限	演習室		
		13:30~15:00 1時限	15:10~16:40 2時限	16:50~18:20 3時限
土	第6演習室 (4階)<55席>			
	第4演習室 (4階)<56席>			
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>			
	第1演習室 (2階)<56席>	休 日 開 放 (10:00 ~ 17:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>			

5. 業務関連

演習室使用予定表 平成29年度・後学期第4クォータ

日曜	時限	8:30~10:00		10:20~11:50		12:40~14:10		14:30~16:00		16:20~17:50		18:00~19:30		19:40~21:10		
		1時限		2時限		3時限		4時限		5時限		6時限		7時限		
月	第6演習室 (4階)<56席>			地理情報システム学 (社・環境デザイン2年) 渡邊敬造	環境建設工学実験II (工・環建3年) 全 邦 釘	2017SGH 我々と環境問題 李 賢 映					12/4, 11, 1/22, 29					
	第4演習室 (4階)<56席>	政策情報論 (法文 総政) 梅田 道生		1/22				松山東スーパーグローバル ハイスクール(SGH)事業 井門 俊								
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>			英語統一試験 GTEC CTE			生活科学入門 (理, 医, 農, SSC 1年) 古賀 理和				1/15, 22, 29, 2/5, 19					
	第1演習室 (2階)<56席>					地球物理学実験 (理学部地球科学科2年生) 出倉 春彦					夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>					
	メディア演習室 (2階北)<56席>				英語統一試験 GTEC CTE			1/22								
火	第6演習室 (4階)<56席>			1/23	情報基盤システム特論 (工 情報工学コース M1) 阿高 裕久	心理学実験演習 (法文 2年) 十河 宏行		基礎朝鮮語4 (法文 1年) 池 貞 矩			2/13					
	第4演習室 (4階)<56席>			1/23	学生代表者会メンバーによる プレゼンテーション	英語統一試験 GTEC CTE		基礎フランス語4 (法文) 柳 光 子								
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>	英語統一試験 GTEC CTE	キャリアデザイン (工 電気電子 3年) 門脇 一則		英語統一試験 GTEC CTE		プログラミング言語 (工・機械) 柴田 諭			1/23						
	第1演習室 (2階)<56席>			1/16		1/23		1/23			夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>					
	メディア演習室 (2階北)<56席>	英語統一試験 GTEC CTE		1/23		英語統一試験 GTEC CTE										
水	第6演習室 (4階)<56席>			システムデザイン (工学部 3年) 甲斐 博						地域連携型若年者IT人材育成研修 (えひめIT人材育成キャンパス)				12/20, 1/10, 17		
	第4演習室 (4階)<56席>			BS+自己PR作成講座												
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>					CAD実習 (工学部機械 2年) 朱 震										
	第1演習室 (2階)<56席>			2/14							夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>					
	メディア演習室 (2階北)<56席>															
木	第6演習室 (4階)<56席>	情報通信システム特論 (博士前期課程 1年) 都築 伸二	地理情報システム学 (社・環境デザイン2年) 渡邊敬造							地域連携型若年者IT人材育成研修 (えひめIT人材育成キャンパス)				12/14		
	第4演習室 (4階)<56席>	政策情報論 (法文 総政) 梅田 道生						松山東スーパーグローバル ハイスクール(SGH)事業 井門 俊		法情報論 (法・2~4年) 上山 友一						
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>	英語統一試験 GTEC CTE														
	第1演習室 (2階)<56席>			1/25							夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>					
	メディア演習室 (2階北)<56席>	英語統一試験 GTEC CTE		1/25				英語統一試験 GTEC CTE		1/25						
金	第6演習室 (4階)<56席>							SPIガイダンス					1/12			
	第4演習室 (4階)<56席>			2/16												
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>				SPIガイダンス講座	創造設計製作 (工 機械工学科) 堤 三 佳		キャリア形成セミナー (工・機械3年) 武部 博倫			1/19					
	第1演習室 (2階)<56席>										夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>					
	メディア演習室 (2階北)<56席>				英語統一試験 GTEC CTE		1/26		英語統一試験 GTEC CTE		1/26					

* 使用予定表に授業科目の記載がない場合、また記載があっても授業等で使用していなければ、自習室として利用できます。
* 説明会・講習会、補講、集中講義等の一時使用については記載していません。

日曜	時限	13:30~15:00		15:10~16:40		16:50~18:20	
		1時限		2時限		3時限	
土	第6演習室 (4階)<56席>						
	第4演習室 (4階)<56席>						
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>						
	第1演習室 (2階)<56席>			休 日 開 放 (10:00 ~ 17:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>			
メディア演習室 (2階北)<56席>							

5. 業務関連

(5) センターイベント

○情報セキュリティセミナー

主 催：愛媛大学総合情報メディアセンター
日 時：平成 29 年 9 月 19 日（火）14：00～16：10
場 所：愛媛大学総合情報メディアセンター1F メディアホール
対 象：本学学生・教職員

○キャンパス IT 授業

主 催：愛媛大学
日 時：平成 29 年 9 月 27 日（水）13:00～16:00
場 所：愛媛大学総合情報メディアセンター
対 象：高校生

(6) 各種委員会

【センター会議】

平成 29 年度第 1 回総合情報メディアセンター会議議事要旨

日 時：平成 29 年 6 月 21 日（水） 15：30-16：50

場 所：総合情報メディアセンター会議室

出席者：高橋センター長、梅田委員、観音委員、廣垣委員、土屋教授(山本委員代理)、木村委員、二宮委員、羽藤委員、中川委員、野口委員、川原委員、仲道委員、佐々木委員、菊川委員

欠席者：阿萬委員

議事に入る前に、今年度最初の会議であるため、各委員の自己紹介があった。

(審議事項)

1 総合情報メディアセンター利用負担金について（センター長、資料 1）

センター長から平成 29 年度総合情報メディアセンター利用負担金について審議願いたいとの提案があった。

つづいて、事務課長から資料 1 により、次のとおり説明があった。

例年、各学部等に総合情報メディアセンターの利用料についての負担をお願いしているものです。

社会共創学部については、学年進行により 5 万円増額し、それに伴い、国際連携推進機構、社会連携推進機構の負担を減額した。

審議の結果、原案どおり了承された。

2 平成 28 年度決算（案）及び平成 29 年度予算（案）について（センター長、資料 2）

センター長から平成 28 年度決算（案）および平成 29 年度予算（案）について審議願いたいとの提案があった。

つづいて、事務課長から資料 2 により、次のとおり説明があった。

昨年度の決算は、他学部からの予算流用(借金)を受けた決算となっている。

5. 業務関連

今年度の予算案についても厳しく決算は赤字になる。

審議の結果、原案どおり了承された。

3 その他

なし

(報告事項)

1 愛媛大学における情報セキュリティ対策基本計画について (センター長, 資料 3)

センター長から、資料 3 により、昨年度(平成 28 年度)に情報セキュリティ委員会において「愛媛大学における情報セキュリティ対策基本計画」を策定し、文部科学省に報告した旨の報告があった。今年度(平成 29 年度)以降、愛媛大学情報セキュリティ対策基本計画工程表に従って、各取組事項を実施する予定である。

2 国立大学法人等最高情報セキュリティ責任者会議について (事務課長, 資料 4)

事務課長から、平成 29 年 5 月 30 日に文部科学省において国立大学法人等最高情報セキュリティ責任者会議が開催され、宇野理事(CISO)、菊川事務課長が出席した旨の報告があった。資料 4 により、情報セキュリティに関する状況と今後の対策について概要の説明があった。

3 その他

2017 年 6 月 7・8 日インシデント概要(Wanna Cry 感染端末の持込)について

事務課長から、農学部と医学部において、ランサムウェア(Wanna Cry)に感染した端末が見つかり、文部科学省に「情報セキュリティインシデント発生時の確認事項リスト」を提出した旨の報告があった。感染端末は、OS、ソフトウェア、ウイルス対策ソフトが最新状態に未更新であり、セキュリティの低い「Ehime Free Wi-Fi ネットワーク」に接続歴があり、これらのことは感染要因の一つと考えられる。委員においては、OS、ソフトウェア、ウイルス対策ソフトを更新し最新状態にすること、学内で無線ネットワークを利用する場合は、大学提供のネットワーク(eustaff 等)に接続するよう部局での周知をお願いしたいとの依頼があった。

【教員コア会議】

- ・平成 29 年 4 月 25 日 (火) 平成 29 年度第 1 回総合情報メディアセンター教員コア会議
- ・平成 29 年 9 月 19 日 (火) 平成 29 年度第 2 回総合情報メディアセンター教員コア会議

5. 業務関連

愛媛大学総合情報メディアセンター規則

平成30年4月1日
規則第 22 号

愛媛大学総合情報メディアセンター規則（平成23年規則第24号）の全部を改正する。

（趣旨）

第1条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第30条第2項の規定に基づき、愛媛大学総合情報メディアセンター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第2条 センターは、学内共同利用の施設として、愛媛大学（以下「本学」という。）の情報基盤の整備を図り、教育研究活動の支援及び情報技術に関する教育研究を行うとともに、学内外の情報化に寄与することを目的とする。

（部門）

第3条 前条の目的を達成するため、センターに次の各号に掲げる部門を置く。

- (1) 情報基盤・セキュリティ部門
- (2) ICT（Information and Communication Technology をいう。以下同じ。）利用教育・情報サービス推進部門

（組織）

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 専任教員
- (3) 兼任教員
- (4) その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

（センター長）

第5条 センター長は、本学の専任の教授のうちから、愛媛大学先端研究・学術推進機構学術研究会議（以下「学術研究会議」という。）が推薦し、学長が選考する。

2 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（専任教員）

第6条 専任教員は、学術研究会議が推薦し、国立大学法人愛媛大学人事委員会の議を経て、学長が選考する。

（兼任教員）

第7条 兼任教員は、本学の専任教員のうちから、センター長が当該教員の所属する部局等の長の同意を得て推薦し、学長が任命する。

2 兼任教員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（職務）

5. 業務関連

第8条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 専任教員は、センター長の職務を助け、センターの業務を遂行する。

3 兼任教員は、センターの専任教員とともにセンターの業務を遂行する。

4 センター職員は、センターの業務に従事する。

(学術研究会議)

第9条 センターの業務に関する重要な事項は、学術研究会議において審議する。

(運営委員会)

第10条 センターの運営に関する事項を審議するため、愛媛大学総合情報メディアセンター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(ICT利用教育推進室)

第11条 センターに、情報通信技術を利用した教育を推進するため、ICT利用教育推進室を置く。

2 ICT利用教育推進室に関し必要な事項は、別に定める。

(部会)

第12条 センターの業務に関する事項の企画立案等を行うため、必要に応じて部会を置くことができる。

2 部会に関し必要な事項は、別に定める。

(利用)

第13条 センターの利用に関する規程は、別に定める。

(分室)

第14条 センターに、医学部分室及び農学部分室を置く。

2 分室に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第15条 センターに関する事務は、研究支援部情報システム課で処理する。ただし、分室における事務は、当該分室が所在する学部の事務部で処理する。

(雑則)

第16条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成30年4月1日から施行する。

2 愛媛大学総合情報メディアセンター教育デザイン室内規（平成25年4月1日制定）は、廃止する。

5. 業務関連

愛媛大学総合情報メディアセンター利用規程

平成16年4月1日
規則 193号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学総合情報メディアセンター規則第13条の規定に基づき、愛媛大学総合情報メディアセンター(以下「センター」という。)が管理する計算機システム(以下「システム」という。)及びキャンパス情報ネットワーク(以下「ネットワーク」という。)の利用に関し、必要な事項を定めるものとする。

(利用者の資格)

第2条 システム及びネットワークを利用することができる者は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 愛媛大学の職員、学生及び附属学校生徒
- (2) その他センター長が適当と認めた者

(システム利用の手続)

第3条 システムを利用しようとする者は、所定の利用申請書をセンター長に提出するものとする。

2 前項の有効期限は、当該年度限りとする。

(ネットワーク利用の手続)

第4条 ネットワークを利用しようとする者は、所定の手続により、申請するものとする。

2 前項の有効期限は、ネットワーク利用が認められた者の資格が失われるまでとする。

(ポリシー等の遵守)

第5条 システム及びネットワークを利用する者は、国立大学法人愛媛大学情報システム運用基本方針、国立大学法人愛媛大学情報システム運用基本規則、国立大学法人愛媛大学情報システム運用・管理規程及び国立大学法人愛媛大学情報格付基準を遵守しなければならない。

(システム利用経費の負担)

第6条 利用に係る経費を負担する者(以下「支払責任者」という。)は、システム利用が認められた者の利用に係る経費を負担しなければならない。

2 前項の規定により支払責任者が負担すべき経費の額及び負担方法は、センター運営委員会の議を経て、センター長が別に定める。

(ネットワーク利用経費の負担)

第7条 ネットワーク利用が認められた者の負担すべき経費の額及び負担方法は、センター運営委員会の議を経て、センター長が別に定める。

(利用時間の制限等)

第8条 センター長は、システム及びネットワークの利用に関し、利用時間帯を制限し、又は指定することができる。

(機器の移動等の禁止)

第9条 センターの機器等に関し、次の各号に掲げる事項は禁止する。ただし、センター

5. 業務関連

長が特に必要と認めた場合は、この限りでない。

- (1) 機器の移動又は変更
- (2) ソフトウェアの変更，追加
(利用承認の取消し等)

第10条 センター長は、センターに関する諸規則に違反する者があるとき、又はセンターの運営に重大な支障を生じさせるおそれのあるときは、その者の利用の承認を取消し又は利用を停止することができる。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、センターの利用に関し必要な事項は、センター運営委員会の議を経てセンター長が定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年9月12日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

5. 業務関連

愛媛大学総合情報メディアセンター分室規程

〔平成16年4月1日〕
規則 192号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学総合情報メディアセンター規則第14条第2項の規定に基づき、愛媛大学総合情報メディアセンター分室(以下「分室」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(分室長)

第2条 分室に分室長を置く。

2 分室長は、当該分室が所在する学部の愛媛大学総合情報メディアセンター運営委員会委員(以下「運営委員会委員」という。)をもって充てる。

3 分室長の任期は、運営委員会委員として任命された期間とし、再任を妨げない。

4 分室長は、愛媛大学総合情報メディアセンター長の指示に従い、当該分室の業務を処理する。

(委員会)

第3条 分室の円滑な運営を図るため、分室に分室の運営に関する委員会を置くことができる。

(雑則)

第4条 この規程に定めるもののほか、分室に関する必要な事項は、分室長が定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

案内図



〒790-8577 松山市文京町3
3 Bunkyo-cho Matsuyama 790-8577, Japan
TEL 089-927-8803・FAX 089-927-8805
<http://www.cite.ehime-u.ac.jp/>
2018.5発行